

# 国 語

## (古典B)

発行者の番号略	教科書の記号番	判 型	総ページ数	検定済年
17 教出	古B309	A5	340	平成25年
117 明治	古B316	A5	248	
	古B317	A5	158	
117 明治	古B318	A5	314	
109 文英堂	古B319	A5	320	
183 第一	古B322	A5	266	
	古B323	A5	166	
212 桐原	古B325	A5	266	
	古B326	A5	170	
212 桐原	古B327	A5	396	
2 東書	古B329	A5	324	平成29年
2 東書	古B330	A5	438	
2 東書	古B331	A5	314	
	古B332	A5	192	
15 三省堂	古B333	A5	260	
	古B334	A5	184	
15 三省堂	古B335	A5	372	
17 教出	古B336	A5	298	
	古B337	A5	184	
17 教出	古B338	A5	412	
50 大修館	古B339	A5	312	
	古B340	A5	182	
50 大修館	古B341	A5	392	
50 大修館	古B342	A5	366	
104 数研	古B343	A5	270	
	古B344	A5	162	
117 明治	古B345	A5	256	
	古B346	A5	166	
117 明治	古B347	A5	314	
143 筑摩	古B348	A5	288	
	古B349	A5	176	
183 第一	古B350	A5	292	
	古B351	A5	166	
183 第一	古B352	A5	454	
183 第一	古B353	A5	316	
212 桐原	古B354	A5	290	
	古B355	A5	178	

※総ページ数は、目録に記載されている数

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

古典B								冊数	37冊
発行者の略称・ 教科書の番号	教出309	明治316	明治317	明治318	文英堂319	第一322	第一323	桐原325	
	桐原326	桐原327	東書329	東書330	東書331	東書332	三省堂333	三省堂334	
	三省堂335	教出336	教出337	教出338	大修館339	大修館340	大修館341	大修館342	
	数研343	数研344	明治345	明治346	明治347	筑摩348	筑摩349	第一350	
	第一351	第一352	第一353	桐原354	桐原355				

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【国語の目標】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 【古典Bの目標】

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

### 【古典Bの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。	(1) 古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにする。
イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。	(2) 古典を読み深めるため、音読、朗読、暗唱などを取り入れるようにする。
ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	(3) 文語文法の指導は読むことの学習に即して行い、必要に応じてある程度まとまった学習もできるようにする。
エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。	(4) 教材については、次の事項に留意するものとする。
オ 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。	ア 教材は、言語文化の変遷について理解を深める学習に資するよう、文種や形態、長短や難易などに配慮して適当な部分を取り上げること。 イ 教材には、日本漢文を含めること。また、必要に応じて近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができること。

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 古文の文章教材の数と古典における割合（作品名と作者名は「別紙2」）	内容の取扱い《古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにする。》	個、%
b 漢文の文章教材の数と古典における割合（作品名と作者名は「別紙2」）	内容の取扱い《古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにする。》	個、%

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

＜上記調査項目関連＞

a 古文の文章教材の作品名と作者名

b 漢文の文章教材の作品名と作者名

＜その他＞

\* 北朝鮮による拉致問題の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）

\* 防災や、自然災害の扱い

\* オリンピック、パラリンピックの扱い

（調査の結果、記載のないことを確認した。）

###### ② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

・ 高等学校学習指導要領では、古典Bの「内容の取扱い」において「古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにする。」と示されているため、どのような文章がどの程度掲載されているかを調査する。

\* 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

\* 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。

\* 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

#### (2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

① 言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係に関わる文章教材の扱い方

② 日本漢文の扱い方

③ 近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などの教材の扱い方

④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(古典B)

調査項目			a		b		
			割数 合と古 典にお けるの	古 文の 文章 教材 の	割数 合と古 典にお けるの	漢 文の 文章 教材 の	
発行者	教科書番号	教科書名	個	%	個	%	(教材として数え た数の合計)
教出	309	新編 古典B 言葉の世界へ	52	55.3	42	44.7	94
明治	316 317	精選古典B 古文編 精選古典B 漢文編	74	57.8	54	42.2	128
明治	318	高等学校古典B	52	50.5	51	49.5	103
文英堂	319	新編古典	63	61.8	39	38.2	102
第一	322 323	高等学校 古典B 古文編 高等学校 古典B 漢文編	92	63.9	52	36.1	144
桐原	325 326	探求古典B 古文編 探求古典B 漢文編	69	58.5	49	41.5	118
桐原	327	古典B	65	58.0	47	42.0	112
東書	329	新編古典B	38	42.7	51	57.3	89
東書	330	精選古典B 新版	77	53.1	68	46.9	145
東書	331 332	精選古典B 古文編 精選古典B 漢文編	90	53.3	79	46.7	169
三省堂	333 334	高等学校古典B 古文編 改訂版 高等学校古典B 漢文編 改訂版	91	52.0	84	48.0	175
三省堂	335	精選古典B 改訂版	69	48.9	72	51.1	141
教出	336 337	精選古典B 古文編 精選古典B 漢文編	93	55.4	75	44.6	168

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(古典B)

調査項目			a		b		
			割数古 合と文 古の 典文 に章 お教 ける 材の		割数漢 合と文 古の 典文 に章 お教 ける 材の		
発行者	教科書番号	教科書名	個	%	個	%	(教材として数え た数の合計)
教出	338	古典B	75	52.8	67	47.2	142
大修館	339 340	古典B 改訂版 古文編 古典B 改訂版 漢文編	95	57.2	71	42.8	166
大修館	341	精選古典B 改訂版	69	51.5	65	48.5	134
大修館	342	新編古典B 改訂版	39	52.0	36	48.0	75
数研	343 344	改訂版 古典B 古文編 改訂版 古典B 漢文編	73	53.3	64	46.7	137
明治	345 346	新 精選古典B 古文編 新 精選古典B 漢文編	78	55.7	62	44.3	140
明治	347	新 高等学校古典B	52	48.6	55	51.4	107
筑摩	348 349	古典B 古文編 改訂版 古典B 漢文編 改訂版	87	58.4	62	41.6	149
第一	350 351	高等学校 改訂版 古典B 古文編 高等学校 改訂版 古典B 漢文編	91	61.1	58	38.9	149
第一	352	高等学校 改訂版 古典B	91	61.1	58	38.9	149
第一	353	高等学校 改訂版 標準古典B	50	50.5	49	49.5	99
桐原	354 355	新 探求古典B 古文編 新 探求古典B 漢文編	85	57.4	63	42.6	148
平均値			72	55.1	59	44.9	

- ・古文の文章(物語、随筆、説話、日記など)は教科書中に一つのまとまりとして掲載された段、編などを1教材として数えた。
- ・aのうち、和歌については教科書の編集上の一つのまとまり(例:「万葉集」として十数首をまとめて1教材として編集したもの)を1教材として数えた。
- ・aのうち、古典に関連する近代以降の文章教材については、古文教材としては数えず、その扱いを「別紙3」に記述した。
- ・漢文の文章については、教科書編集上の意図に沿って、まとめられた1編・1段などの1部分を1教材として数えた。
- ・bのうち、漢詩については1編を1教材として数えた。
- ・bのうち、「論語」については、教科書編集上の意図に沿って、複数の章をまとめた1部分を1教材として数えた。
- ・a及びbで数えた教材については、「別紙2」に教材名等を記述している。

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 教出309】 (古典B)

古 文			漢 文		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
北叟が馬	古今著聞集		此必苦李	世説新語	劉義慶
養老の滝	十訓抄		賈履忘度	韓非子	韓非
夢を取ること	宇治拾遺物語		畏饑頭	五雜俎	謝肇淛
愛宕護山の聖人	今昔物語集		江南橋為江北枳	説苑	
丹波に出雲といふ所あり			鴻門の会		
相模の守時頼の母は	徒然草	兼好	四面楚歌	史記	司馬遷
能をつかんとする人			項王の最期		
神無月の頃			鹿柴	唐詩選	王維
行く川の流れ	方丈記	鴨長明	涼州詞		王之涣
安元の大火			望廬山瀑布	李太白集	李白
かたはらいたきもの			月夜	唐詩三百首	杜甫
野分のまたの日こそ	枕草子	清少納言	桃夭	詩經	
無名といふ琵琶の御琴を			飲酒	陶淵明集	陶潜
蓬萊の玉の枝	竹取物語		漁父辞	楚辞	屈平
初冠			桃花源記	陶淵明集	陶潜
身を知る雨	伊勢物語		論語(3章)	論語	
狩りの使ひ			不忍人之心	孟子	
安積山	大和物語		人之性悪	荀子	荀况
安倍の仲麻呂の歌	土佐日記	紀貫之	小国寡民	老子	
黒鳥のもと			渾沌	莊子	莊周
門出			侵官之害	韓非子	韓非
『源氏』の五十余巻	更級日記	菅原孝標の女	閼羽と張飛	三国志	陳寿
をかしげなる猫			諸葛孔明	十八史略	曾先之
万葉の歌(4首)	万葉集(4首)	額田王、柿本人麻呂、山部赤人、大伴家持	曹操	世説新語	劉義慶
	古今和歌集(2首)	紀貫之、小野小町	行行重行行	文選	蕭統
王朝の歌(6首)	拾遺和歌集(1首)	藤原公任	子夜呉歌	李太白集	李白
	後拾遺和歌集(1首)	和泉式部	売炭翁	白氏文集	白居易
	新古今和歌集(2首)	後鳥羽上皇、藤原定家	売油翁	綿田録	歐陽脩
俳諧(12句)		松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶	送薛存義序	古文真宝後集	柳宗元
先帝入水	平家物語		刺客荆軻	史記	司馬遷
能登殿最期			三十輻共一轂	老子	
世界の借屋大将	日本永代蔵	井原西鶴	廁足而塾之	莊子	莊周
すさまじきもの			勸学	荀子	荀况
男こそ、なほ、いとありがたく	枕草子	清少納言	公私相背	韓非子	韓非
宮に初めて参りたる頃			直躬	論語	
嘆きつつ	蜻蛉日記	藤原道綱の母	千日酒	搜神記	干宝
帥の宮の訪れ	和泉式部日記	和泉式部	人面桃花	本事詩	孟榮
若宮誕生	紫式部日記	紫式部	九月十日	菅家後集	菅原道真
倭建命	古事記		冬夜読書	黄葉夕陽村舎詩集	菅茶山
雲林院の菩提講			桂林荘雜詠示諸生	遠思樓詩鈔	広瀬淡窓
若き日の道長	大鏡		題自画		夏目漱石
南院の競射			信玄と謙信	日本外史	頼山陽
女院詮子の道長びいき					
鐘の袖	増鏡				
万葉の歌(4首)	万葉集(4首)	天智天皇、狭野弟上娘子、大伴旅人、大伴坂上郎女			
	古今和歌集(1首)	凡河内躬恒			
王朝の歌(4首)	後拾遺和歌集(1首)	紫式部			
	新古今和歌集(2首)	藤原俊成の女、西行			
奥の細道名句選(12句)	奥の細道	松尾芭蕉、菅良			
光源氏の誕生					
藤壺の宮の入内	源氏物語	紫式部			
若紫との出会い					
文	無名草子				
俊成自賛歌のこと	無名抄				
一字の違い	正徹物語	正徹			
此木戸や	去来抄	向井去来			
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長			
古文小計		(52)	漢文小計		(42)

古文の文章教材の作品名と作者名					
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
博雅の三位と鬼の笛 大江山	十訓抄	六波羅二上臈左衛門入道	門出 源氏物語を読む	更級日記	菅原孝標女
袴垂、保昌に会ふこと 世に語り伝ふること これも仁和寺の法師 雪のおもしろう降りたりし朝 あだし野の露消ゆるときなく 折節の移り変わるこそ 世に従はん人は ゆく河の流れ	宇治拾遺物語  徒然草	  兼好	今や夢昔や夢 雲林院の菩提講 花山天皇の退位 花山天皇の退位 南院の競射 うつくしきもの かたはらいたきもの 二月つごもり頃に 宮に初めて参りたる頃 御前にて人々とも 町の小路の女	建礼門院右京大夫集 大鏡 栄花物語 大鏡	建礼門院右京大夫
養和の飢饉 日野山の閑居 初冠 狩りの使ひ 小野の雪 つひに行く道 姨捨山の月	方丈記  伊勢物語 大和物語	鴨長明	若宮誕生 和泉式部・清少納言 沓冠折句の歌 おもて歌のこと 心と詞 不易流行 車争ひ 心づくしの秋風 野分の垣間見 三日がほど 紫の上の死 虫めづる姫君 六歳の夏の頃 フルヘツヘンド 道真の左遷	枕草子 蜻蛉日記 和泉式部日記 紫式部日記	清少納言 藤原道綱母 和泉式部 紫式部
和歌	万葉集(9首)	天智天皇、額田王、但馬皇女、柿本人麻呂 山上憶良、山部赤人、大伴家持、防人歌	源俊賴 源俊賴	俊頼髓脳 無名抄	源俊頼 鴨長明
	古今和歌集(6首)	紀貫之、小野小町、遍昭、凡河内躬恒 小野篁、伊勢	心と詞 不易流行	毎月抄 三冊子	藤原定家 服部土芳
	新古今和歌集(7首)	後鳥羽上皇、俊成女、宮内卿、西行 寂蓮、藤原良経、藤原定家	車争ひ		
	後拾遺和歌集(3首)	曾禰好忠、能因、和泉式部	源俊賴	源氏物語	紫式部
	金葉和歌集(1首)	源俊賴	建礼門院右京大夫	堤中納言物語	
	建礼門院右京大夫集(1首)	建礼門院右京大夫	源実朝	折たく柴の記	新井白石
	金槐和歌集(1首)	源実朝	京極為兼	蘭学事始	杉田玄白
	風雅和歌集(1首)	京極為兼	良寛		
	はちすの露(1首)	良寛	香川景樹		
	桂園一枝(1首)	香川景樹	紀貫之		
古今和歌集仮名序	古今和歌集	紀貫之	三船の才 肝試し	大鏡	
歌謡	梁塵秘抄 閑吟集		鶯宿梅 新島守	増鏡 無名草子	
俳諧		松尾芭蕉、与謝蕪村、 小林一茶、 向井去来	紫式部		
俳論	去来抄	向井去来	もののあはれの論 師の説になづまざること 秘する花を知ること 虚実皮膜の間 倭建命の望郷の歌 鼠の文使ひ 浅茅が宿	源氏物語玉の小櫛 玉勝間 風姿花伝 難波みやげ 古事記 世間胸算用 雨月物語	本居宣長 世阿弥 三木貞成 井原西鶴 上田秋成
光源氏誕生 小柴垣のもと 春はあけぼの 木の花は 中納言参り給うひて 雪のいと高くう降りたるを 九月ばかり 忠度の都落ち 先帝身投げ	源氏物語  枕草子 平家物語	紫式部  清少納言			
			古文小計		(74)

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 明治316・317】 (古典B)

漢文の文章教材の作品名と作者名					
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
漱石枕流	世説新語	劉義慶	漁父辞	楚辞	屈原
推敲	唐詩紀事	計有功	春夜宴桃李園序	古文真宝	李白
塞翁馬	淮南子	劉安	師説		韓愈
震畏四知	蒙求	李瀚	醉翁亭記		歐陽脩
杞憂	列子	列禦寇	贈衛八処士	唐詩三百首	杜甫
孟母断機	列女伝	劉向	長恨歌	白氏文集	白居易
管鮑之交	十八史略	曾先之	陽羨鵝籠記	続齊諧記	吳均
背水之陣			離魂記	太平広記	陳玄祐
赤壁之戦			枕中記	文苑英華	沈既濟
桃夭	詩経		灑池之会	史記	司馬遷
飲酒	陶淵明集	陶潜	刎頸之交		
勅勒歌	古詩源	斛律金	風蕭蕭兮易水寒		
竹里館	唐詩選	王維	罔窮而七首見	孟子	孟軻
望廬山瀑布	李太白集	李白	荀子	荀子	荀况
登岳陽楼	唐詩三百首	杜甫	老子	老子	老聃
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁	白氏文集	白居易	莊子	莊子	莊周
春夜	蘇軾詩集	蘇軾	墨子	墨子	墨翟
遊山西村	劔南詩稿	陸游	韓非子	韓非子	韓非
鴻門之会	史記	司馬遷	孫子	孫子	孫武
四面楚歌	孟子	孟軻	蘇武持漢節	資治通鑑	司馬光
五十步百步	莊子	莊周	三顧之礼	三国志	陳寿
夢為胡蝶	韓非子	韓非	読家書	菅家後集	菅原道真
曳尾於塗中			富士山	新編覆醬集	石川丈山
巨賈履	戰国策	劉向	無題	漱石全集	夏目漱石
慈惠亡国	列子	列禦寇	深耕説	空華集	義堂周信
不死之薬			能登殿最期	日本外史	頼山陽
愚公移山				漢文小計	(54)



古文の文章教材の作品名と作者名					
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
安養の尼の小袖	古今著聞集	橘成季	去来抄	去来抄	向井去来
児の餵食ひたること	沙石集	無住	博雅の三位と鬼の笛	十訓抄	
大江山	十訓抄	六波羅二蔵左衛門入道	兼光の悪口	宇治拾遺物語	
帝の求婚	竹取物語		花山天皇の退位	大鏡	
かぐや姫の昇天			三船の才		
世に語り伝ふること			肝試し		
これも仁和寺の法師	徒然草	兼好	南院の競射	蜻蛉日記	藤原道綱の母
雪のおもしろう降りたりし朝					
城陸奥守泰盛は			町の小路の女		
ゆく河の流れ	方丈記	鴨長明	鷹を放つ	和泉式部日記	和泉式部
養和の飢饉			夢よりもはかなき世の中を		
通い路の関守			光源氏誕生	源氏物語	紫式部
梓弓	伊勢物語		小柴垣のもと		
小野の雪			物の怪の出現		
百人一首 (20首)	百人一首	天智天皇、小野小町、僧正遍昭、凡河内躬恒、紀友則、紀貫之、平兼盛、曾禰好忠、和泉式部、左京大夫道雅、周防内侍、大納言経信、源兼昌、待賢門院堀河、後徳大寺左大臣、皇太后宮大夫俊成、寂蓮法師、参議雅経、権中納言定家、順徳院	野分の垣間見		
			万葉集 (5首)	万葉集 (5首)	雄略天皇、但馬皇女、柿本人麻呂、山上憶良
			和歌 (10首)	古今和歌集 (10首)	菅原道真、壬生忠岑、中宮定子、能因源俊頼、西行、源実朝、後鳥羽上皇
春はあけぼの	枕草子	清少納言	古今和歌集 仮名序	古今和歌集	紀貫之
うつくしきもの			歌謡 (10首)	催馬楽 (1首)	
はしたなきもの				梁塵秘抄 (4首)	後白河上皇
雪のいと高う降りたるを				閑吟集 (3首)	
九月ばかり			隆達小歌集 (1首)	高三隆達	
忠度の都落ち	平家物語		松の葉 (1首)	秀松軒	
先帝身投げ			文	無名草子	
門出	更級日記	菅原孝標の女	静かに思へば	徒然草	兼好
源氏物語を読む			おもて歌のこと	無名抄	鴨長明
今や夢昔や夢	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	天性の名人	耳麿集	金子吉左衛門
俳諧 (16句)	甲子吟行 (2句)		田舎に雅言の残れること	玉勝間	本居宣長
	笈の小文 (1句)		須佐之男命の大蛇退治	古事記	
	放懐 (1句)	松尾芭蕉	鼠の文使ひ	世間胸算用	井原西鶴
	其便 (1句)		浅茅が宿	雨月物語	上田秋成
	笈日記 (1句)				
	蕪村句集 (6句)	与謝蕪村			
	七番日記 (3句)				
	句稿消息 (1句)	小林一茶			
			古文小計		(52)

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 明治318】 (古典B)

漢文の文章教材の作品名と作者名					
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
矛盾	韓非子	韓非	溷鳥舞不下	列子	列禦寇
推敲	唐詩紀事	計有功	不顧後患	說苑	劉向
画竜点睛	歴代名画記	張彦遠	王昭君	西京雜記	葛洪
蜚雪之功	蒙求	李瀚	中石没矢	蒙求	李瀚
両頭之蛇	新序	劉向	令七步中作詩	世說新語	劉義慶
杞憂	列子	列禦寇	青眼白眼	蒙求	李瀚
太公望	十八史略	曾先之	死友	搜神記	干宝
蘭相如			人面桃花	本事詩	孟榮
燕雀安知鴻鵠之志哉			酒虫	聊齋志異	蒲松齡
背水之陣			鴻門之会	史記	司馬遷
赤壁之戰			四面楚歌	詩經	孔子
創業守成	唐詩選	王維	野田黄雀行	古詩源	曹植
竹里館	唐詩三百首	王翰	勅勒歌	唐詩三百首	李白
涼州詞	李太白集	李白	子夜吳歌	杜甫	杜甫
望廬山瀑布	白氏文集	白居易	兵車行	孟子	孟軻
舟中詠元九詩	唐詩三百首	杜甫	孟子	荀子	荀況
旅夜書懷	唐詩選	崔顥	荀子	老子	老聃
黃鶴樓	蘇軾詩集	蘇軾	老子	莊子	莊周
春夜	劍南詩稿	陸游	莊子	韓非子	韓非
遊山西村	陶淵明集	陶潜	韓非子	聞旅雁	菅原道真
五柳先生伝	唐宋八家文読本	韓愈	聞旅雁	富士山	新編覆瓿集
雑説	古文真宝	柳宗元	富士山	徂徠貧居	原念齋
送薛存義序	孟子	孟軻	徂徠貧居	僧陰	言志録
五十歩百歩	莊子	莊周	僧陰		佐藤坦
夢為胡蝶	韓非子	韓非			
巨賈履					
漢文小計					(51)

古文の文章教材の作品名と作者名

教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
文字一つの返し	十訓抄		俳諧〔発句〕(12句)		山崎宗鑑、荒木田守武、松永貞徳、西山宗因 井原西鶴、松尾芭蕉、宝井其角、服部嵐雪 向井去来、千代女、与謝蕪村、小林一茶	
笛吹きの方と名器「大丸」	古今著聞集	橘成季				
刑部卿敦兼と、その北の方				古今和歌集・仮名序	古今和歌集	紀貫之
あだし野の露	徒然草	兼好法師		いとめでたきもの	無名草子	
家居のつきづきしく				行く春を	去来抄	向井去来
雪のおもしろう降りたりし朝				岩鼻や	古事談	源顕兼
これも仁和寺の法師				安養の尼と強盗	宇治拾遺物語	
つれづれわぶる人は				伴大納言応天門を焼く		
悲田院の堯蓮上人は				上に候ふ後猫は		
世に従はん人は				すさまじきもの		
相模守時頼の母は						
よき細工は			過ぎにし方恋しきもの			
ゆく河の流れ	方丈記	鴨長明	ありがたきもの	枕草子	清少納言	
安元の大火			中納言参りたまひて			
初冠			九月ばかり、夜一夜			
渚の院	伊勢物語		雪のいと高う降りたるを			
小野の雪			この草子			
忠度の都落ち	平家物語		夕顔			
敦盛の最期			葵	源氏物語	紫式部	
羽根	土佐日記	紀貫之	須磨			
船旅の不安			御法			
あづま路の道の果て			雲林院の菩提講			
源氏の五十余巻	更級日記	菅原孝標の女	花山院の出家	大鏡		
萩の葉			三船の営れ			
白河の関			隆家と道長			
飯塚	奥の細道	松尾芭蕉	嘆きつつ	蜻蛉日記	藤原道綱の母	
大山越え			薫る香に	和泉式部日記	和泉式部	
桐壺	源氏物語	紫式部	土御門殿の秋	紫式部日記	紫式部	
若紫			深草の里	無名抄	鴨長明	
和歌(14首)	万葉集(4首)	柿本人麻呂	不易流行	三冊子	服部土芳	
	古今和歌集(3首)	紀貫之、紀友則、小野小町	兼好法師が詞のあげつらひ	玉勝間	本居宣長	
	新古今和歌集(5首)	藤原定家、藤原俊成の女、藤原俊成、寂蓮法師	世界の借屋大将	日本永代蔵	井原西鶴	
	山家集(1首)	藤原家隆	浅茅が宿	雨月物語	上田秋成	
	金槐和歌集(1首)	西行法師	須佐之男命の大蛇退治	古事記	稗田阿礼 太安万侶	
歌謡(9首)	梁塵秘抄(4首)	後白河法皇				
	関吟集(5首)					
			古文小計		(63)	

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 文英堂319】 (古典B)

漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等
苛政猛於虎也	礼記	戴聖
朝三暮四	列子	列禦寇
漁父利	戰国策	劉向
塞翁馬	淮南子	劉安
王子猷	世說新語	劉義慶
秦西巴	韓非子	韓非
所争在弓箭不在米塩	日本外史	頼山陽
漁父辞	古文真宝	屈原
捕蛇者説	唐宋八家文読本	柳宗元
登鶴鶴樓		王之渙
鹿柴		王維
涼州詞	唐詩選	王翰
楓橋夜泊		張繼
早發白帝城		李白
芙蓉樓送辛漸		王昌齡
過故人莊	唐詩三百首	孟浩然
除夜宿石頭驛	三體詩	戴叔倫
登高	唐詩選	杜甫
咸陽城東樓	三體詩	許渾
桃夭	詩經	孔子
勸勤歌	古詩賞析	無名氏
論語(九章)	論語	孔子
天爵・人爵	孟子	孟軻
四端		
荊軻入秦	十八史略	曾先子
貞觀之治・三題		
鴻門之会	史記	司馬遷
婦去來辞	古文真宝	陶潜
前赤壁賦		蘇軾
長恨歌	唐詩三百首	白居易
無為	老子	老聃
無用之用		
渾沌	莊子	莊周
夢為胡蝶		
侵官之書	韓非子	韓非
二人説		
四面楚歌	史記	司馬遷
水魚之交	三國志	陳壽
遠慮	先哲叢談	原念齋
漢文小計		(39)



漢文の文章教材の作品名と作者名					
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
推敲	唐詩紀事	計有功(撰)	入蜀記	入蜀記	陸游
吳越同舟	孫子	孫武	寶母辭拾遺	南村綴耕錄	陶宗儀
嬰逆麟	韓非子	韓非	張飛、大いに長坂橋を鬧がす	三國志演義	羅貫中
知音	呂氏春秋	呂不韋(撰)	諸葛孔明の智略	說苑	劉向(撰)
鼓腹擊壤	十八史略	曾先之(撰)	不顧後患	新序	劉向(撰)
莫敢飾詐			不若人有其宝	列子	列禦寇(撰)
戰勝於朝廷	戰国策	劉向(編)	不死之道	戰国策	劉向(撰)
独坐敬亭山	李太白集	李白	唇亡齒寒		
秋風引	劉夢得文集	劉禹錫	趙太后		
九月九日憶山東兄弟	王右丞集	王維	行行重行行	文選	
嶺中作	岑嘉州詩	岑參	責子	陶潛	陶淵明集
除夜寄弟妹	白氏文集	白居易	石壕吏	杜工部集	杜甫
江村	杜工部集	杜甫	長恨歌	白氏文集	白居易
不出門	管家後集	管原道真	壳柑者言	誠意伯文集	劉基
冬夜読書	黃葉夕陽邸舍詩	菅茶山	奇花石	唐荆川文集	唐順之
送夏日漱石之伊予	漢詩稿	正岡子規	道平、人皆由道	呻吟語	呂坤(撰)
新死鬼	幽明錄	劉義慶(撰)	孫臏(孫子吳起列伝)		
枕中記	枕中記	沈既濟(撰)	信陵君(魏公子列伝)	史記	司馬遷
鴻門之会	史記	司馬遷	張儀(張儀列伝)		
四面楚歌			荆軻(刺客列伝)		
雜説	昌黎先生文集	韓愈	老子(3章)	老子	
黔之驢	柳先生文集	柳宗元	莊子(2章)	莊子	莊周
売油翁	歐陽文忠公文集	歐陽脩	韓非子(2章)	韓非子	韓非
論語(8章)	論語		為学	白鶴堂文祿	彭端淑(撰)
孟子(2章)	孟子		黃生借書説	小倉山房詩文集	袁枚(撰)
医薬談笑	東坡志林	蘇軾	夢語之巧合	右台仙館筆記	俞樾(撰)
			漢文小計		(52)

古文の文章教材の作品名と作者名

教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
歌詠みて罪を許さること	宇治拾遺物語		発句(16句)		松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶
衣のたて	古今著聞集	橘成季	連句(12句)		凡兆、芭蕉、去来
虎の罎取りたること	宇治拾遺物語		世界の借屋大将	日本永代蔵	井原西鶴
あだし野の露消ゆるときなく			浅茅が宿	雨月物語	上田秋成
家居のつきつきしく			刑部卿敦兼と北の方	古今著聞集	
これも仁和寺の法師	徒然草	兼好法師	秦兼久の悪口	宇治拾遺物語	
ある者、子を法師になして			勤解由小路の地藏	沙石集	無住
主ある家には			すさまじきもの	枕草子	清少納言
行く川の流れ	方丈記	鴨長明	野分のまたの日こそ		
大火とつじ風			二月のつごもりごろに	枕草子	清少納言
天の羽衣	竹取物語		大納言殿参りたまひて		
初冠	伊勢物語		嘆きつつひとり寝る夜	蜻蛉日記	藤原道綱母
狩りの使ひ			鷹を放つ		
姨捨	大和物語		夢よりもはかなき世の中を	和泉式部日記	和泉式部
門出	更級日記	菅原孝標女	日本紀の御局	紫式部日記	紫式部
物語			かかる夢見ぬ人やいひけむ	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫
春はあけぼの			藤壺の里下がり		
うつくしきもの			葵上と物の怪	源氏物語	紫式部
木の花は	枕草子	清少納言	柏木と女三宮		
中納言参りたまひて			紫上の死		
雪のいと高う降りたるを			匂宮と浮舟		
花山院の出家			虫めづる姫君	堤中納言物語	
三船の才	大鏡		菅原道真の左遷	大鏡	
道長と伊周の競射			道長の豪胆		
宇治川の先陣	平家物語		倭建命	古事記	
先帝入水			大和歌は	古今和歌集仮名序	紀貫之
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	和歌の効用	俊頼髄脳	源俊頼
若紫との出会い			小野小町	無名草子	
	古今和歌集	凡河内躬恒	俊成自賛歌のこと	無名抄	鴨長明
春秋	新古今和歌集(2)	藤原秀能 藤原雅経	秘する花を知ること	風姿花伝	世阿弥
	山家集	西行法師	風雅の道	柴門の辞	松尾芭蕉
	風雅和歌集	京極為兼	行く春を	去来抄	向井去来
	後拾遺和歌集	能因法師	虚実皮膜の論	難波土産	穂積以貫
	金葉和歌集	源俊頼	師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長
恋	古今和歌集	壬生忠岑	もののあはれ	源氏物語玉の小櫛	本居宣長
	後拾遺和歌集	和泉式部	徳兵衛お初道行	曾根崎心中	近松門左衛門
	詞花和歌集	源重之	近世和歌(5首)		賀茂真淵、良寛、香川景樹、橋嘯覧、大隈言道
	新古今和歌集	曾禰好忠 小侍従	狂歌(3首)		四方赤良 朱楽菅江 宿屋飯盛
	新勅撰和歌集	藤原定家			
別離・旅・哀傷	千載和歌集	詠み人知らず			
	新古今和歌集	紫式部 藤原清輔			
	続後撰和歌集	源実朝			
	増鏡	後鳥羽上皇			
	後撰和歌集	藤原兼輔			
			古文小計		(69)

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 桐原325・326】 (古典B)

漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等
画竜点睛	歴代名画記	張彦遠
漱石枕流	世説新語	劉義慶
病入膏肓	春秋左氏伝	孔子
梁上君子	後漢書	汜曄
先從隗始	十八史略	曾先之
紀憂	列子	列禦寇
赤壁の戦ひ	三国志	陳寿
背水の陣	史記	司馬遷
秋風引	唐詩選	劉禹錫
雜詩	唐詩三百首	王維
望廬山瀑布	李太白集	李白
芙蓉楼送辛漸	唐詩選	王昌齡
臨洞庭	唐詩選	孟浩然
登高	唐詩選	杜甫
桃夭	詩經	
行行重行行	文選	無名氏
七步詩	世説新語	曹植
勅勒歌	古詩賞析	無名氏
不出門	管家後集	管原道真
題不識庵擊機山図	山陽詩鈔	頼山陽
思君	逍遙遺稿	中野逍遙
火輪車中之作	柳北詩鈔	成島柳北
春夜宴桃李園序	古文真宝	李白
桃花源記	陶淵明集	陶潜
師説	唐宋八家文読本	韓愈
鴻門之会	史記(項羽本紀)	司馬遷
四面楚歌		
論語(7章)		
孟子(2章)		
荀子(3章)		
不願後患	説苑	劉向
孔明臥竜	蒙求	李瀚
三横	世説新語	劉義慶
江南橋為江北枳	説苑	劉向
荆軻	十八史略	曾先之
子路	史記	司馬遷
月下独酌	唐詩三百首	李白
兵車行		杜甫
長恨歌	白氏文集	白居易
人面桃花	本事詩	孟啓
種梨	聊齋志異	蒲松齡
三夢記	説郛	白行簡
廉頗と藺相如	史記(廉頗藺相如列伝)	司馬遷
蘇武と李陵	資治通鑑	司馬光
老子(2章)	老子	老子
莊子(3章)	莊子	莊周
韓非子(2章)	韓非子	韓非
墨子(1章)	墨子	墨翟
性非学者之所急	弁道	狄生祖徠
漢文小計		(49)



古文の文章教材の作品名と作者名

教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
歌詠みて罪を許さること	宇治拾遺物語		離別・旅・哀傷	千載和歌集(1首)	詠み人知らず	
衣のたて	古今著聞集	橘成季		新古今和歌集(2首)	紫式部・藤原清輔	
虎の鬃取りたること	宇治拾遺物語			続後撰和歌集(1首)	源実朝	
あだし野の露消ゆるときなく	徒然草	兼好法師		増鏡(1首)	後鳥羽上皇	
家居のつきづきしく					後撰和歌集(1首)	藤原兼輔
これも仁和寺の法師					発句(15句)	松尾芭蕉・与謝蕪村、小林一茶
ある者、子を法師になして					連句(12句)	猿蓑
主ある家には				浅茅が宿	雨月物語	上田秋成
行く川の流れ	方丈記	鴨長明		刑部卿敦兼と北の方	古今著聞集	橘成季
大火とつじ風				勤解由小路の地藏	沙石集	無住
天の羽衣	竹取物語		すさまじきもの	枕草子	清少納言	
初冠	伊勢物語		野分のまたの日こそ			
狩りの使ひ			二月つごもりごろに			
姨捨	大和物語		大納言殿参りたまひて	蜻蛉日記	藤原道綱母	
門出	更級日記	菅原孝標女	嘆きつつひとり寝る夜	和泉式部日記	和泉式部	
物語			夢よりもはかなき世の中を	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	
春はあけぼの	枕草子	清少納言	日本紀の御局			
うつくしきもの			かかる夢見ぬ人やいひけむ	源氏物語	紫式部	
木の花は			葵上と物の怪			
中納言参りたまひて			柏木と女三宮			
雪のいと高う降りたるを	紫上の死					
花山院の出家	大鏡		匂宮と浮舟	堤中納言物語		
三船の才			虫めづる姫君			
道長と伊周の競射			菅原道真の左遷	大鏡		
宇治川の先陣	平家物語		道長の豪胆			
先帝入水			倭建命	古事記		
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	大和歌は	古今和歌集仮名序	紀貫之	
若紫との出会ひ			和歌の効用	俊頼髓脳	源俊頼	
春秋	古今和歌集(1首)	凡河内躬恒	小野小町	無名草子		
	新古今和歌集(2首)	藤原秀能、藤原雅経	俊成自賛歌のこと	無名抄	鴨長明	
	山家集(1首)	西行法師	秘する花を知ること	風姿花伝	世阿弥	
	風雅和歌集(1首)	京極為兼	風雅の道	柴門の辞	松尾芭蕉	
	後拾遺和歌集(1首)	能因法師	行く春を	去来抄	向井去来	
恋	金葉和歌集(1首)	源俊頼	虚実皮膜の論	難波土産	穂積以貴	
	古今和歌集(1首)	壬生忠岑	師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長	
	後拾遺和歌集(1首)	和泉式部	ものあはれ	源氏物語玉の小櫛		
	詞花和歌集(1首)	源重之	徳兵衛お初道行	曾根崎心中	近松門左衛門	
	新古今和歌集(2首)	曾禰好忠、侍従	近世和歌(5首)		賀茂真淵、良寛、香川景樹、橘曙覧、大隈言道	
	新勅撰和歌集(1首)	藤原定家	狂歌(3首)		四方赤良、朱楽普江、宿屋飯盛	
古文小計				(65)		

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 桐原327】 (古典B)

漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等
画竜点睛	歴代名画記	張彦遠
漱石枕流	世説新語	劉義慶
病入膏肓	春秋左氏伝	孔子
梁上君子	後漢書	范曄
先從魏始	十八史略	曾先之
杞憂	列子	列御寇
赤壁の戦ひ	三国志	陳寿
背水の陣	史記	司馬遷
秋風引	唐詩選	劉禹錫
雑詩	唐詩三百首	王維
望廬山瀑布	李太白集	李白
芙蓉楼送辛漸	唐詩選	王昌齡
臨洞庭	唐詩選	孟浩然
登高	唐詩選	杜甫
桃夭	詩經	孔子
行行重行行	文選	無名氏
七步詩	世説新語	曹植
勦勦歌	古詩賞析	張玉穀
不出門	菅家後集	菅原道真
題不識庵擊機山図	山陽詩鈔	頼山陽
思君	逍遙遺稿	中野逍遙
火輪車中之作	柳北詩鈔	成島柳北
春夜宴桃李園序	古文真宝・後集	李白
桃花源記	陶淵明集	陶潜
師説	唐宋八家文読本	韓愈
鴻門之会	史記・項羽本紀	司馬遷
四面楚歌	史記・項羽本紀	司馬遷
論語(7章)	論語	孔子
孟子(2章)	孟子	孟子
荀子(3章)	荀子	荀況
不顧後患	説苑	劉向
孔明臥竜	叢書	李瀚
三横	世説新語	劉義慶
江南橋為江北枳	説苑	劉向
荊軻	十八史略	曾先之
子路	史記	司馬遷
月下独酌	唐詩三百首	李白
兵車行	唐詩三百首	杜甫
長恨歌	白氏文集	白居易
人面桃花	本事詩	孟棨
種梨	聊齋志異	蒲松齡
廉頗と藺相如	史記	司馬遷
老子(2章)	老子	老子
莊子(3章)	莊子	莊子
韓非子(2章)	韓非子	韓非
墨子(1章)	墨子	墨翟
性非学者之所急	弁道	荻生徂徠
漢文小計		(47)

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 東書329】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
小野篁、広才のこと	宇治拾遺物語		知音	呂氏春秋	呂不韋
大江山の歌	十訓抄		断腸	世説新語	劉義慶
袴垂、保昌にあふこと	宇治拾遺物語		蛇足	戦国策	劉向
火鼠の皮衣	竹取物語		糟糠之妻	後漢書	范曄
天の羽衣			視吾舌、尚在不	史記、張儀列伝	司馬遷
神無月のころ			宿建德江		孟浩然
丹波に出雲といふ所あり	徒然草	兼好法師	鹿柴		王維
九月二十日のころ			秋風引		劉禹錫
久しく隔たりてあひたる人の			静夜思		李白
小倉百人一首の世界(4首)	マンガでわかる百人一首 小倉百人一首	あんの秀子、光孝天皇、文屋康秀、二条院讃岐、紫式部	磧中作		岑参
小倉百人一首より(8首)	小倉百人一首	紀友則、紀貫之、在原業平朝臣、能因法師、平兼盛、玉生忠見、三条院、藤原清輔朝臣	楓橋夜泊		張継
馬のはなむけ	土佐日記	紀貫之	登岳陽樓		杜甫
佛京			登高		杜甫
門出物語	更級日記	菅原孝標女	香炉峰下、新卜山居草堂初成、偶題東壁		白居易
壇の浦の合戦	平家物語		雜説	韓昌黎集	韓愈
漂泊の思ひ			桃花源記	陶淵明集	陶潜
旅立ち	奥の細道	松尾芭蕉	鴻門之会		
平泉			四面楚歌	史記	司馬遷
ありがたきもの			項王自刎		
野分のまたの日こそ	枕草子	清少納言	出藍嘗	荀子	荀況
中納言参り給ひて			侵官之害	韓非子	韓非
雪のいと高う降りたるを			刻舟求劍	呂氏春秋	呂不韋
安元の大火	方丈記	鴨長明	塞翁馬	淮南子	劉安
初冠	伊勢物語		杞憂	列子	列禦寇
東下り			水魚之交		
姨捨	大和物語		謁股肱之力	十八史略	曾先之
道真の左遷			七縱七禽		
三船の才	大鏡		死諸葛走生仲達	天地有情	土井晩翠
道長、伊周の競射			星落秋風五丈原		
能因と節信	袋草紙	藤原清輔	鼓腹擊壤		
能は歌詠み	古今著聞集		宋襄之仁	十八史略	曾先之
出で映えすべき歌のこと	無名抄	鴨長明	燕雀安知鴻鵠之志哉		
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	桃夭		
若紫			上邪		郭茂倩
蛸売りの八助	世間胸算用	井原西鶴	飲酒		陶潜
倭建命	古事記		子夜呉歌		李白
古典芸能への誘い	源氏物語	紫式部	長恨歌		白居易
桐壺			灑池之会	史記	司馬遷
			勿頭之交		
			性相近也(4章)	論語	
			不忍人之心	孟子	孟軻
			人之性悪	荀子	荀況
			大道廢、有仁義		
			人之生也、柔弱	老子	老聃
			無用之用		
			曳尾於塗中	莊子	莊周
			桂林莊雜詠示諸生	遠思樓詩鈔	広瀬淡窓
			送夏目漱石之伊予	子規全集	正岡子規
			風流人未死	漱石全集	夏目漱石
			所争不在米塩		
			諸將服信玄	日本外史	頼山陽
古文小計		(39)	漢文小計		(51)

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 東書330】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
小野篁、広才のこと	宇治拾遺物語		先從隗始	十八史略	曾先之
能は歌詠み	古今著聞集	橘成季	不死之藥	韓非子	
割り持ちたる鏡	唐物語	藤原成範	完璧而帰	十八史略	曾先之
初冠	伊勢物語		漱石枕流	世説新語	劉義慶
すける物思ひ			創業守成	十八史略	曾先之
渚の院			宿建德江		孟浩然
つひにゆく道			鹿柴		王維
姨捨	大和物語		秋風引		劉禹錫
九月ばかり	枕草子	清少納言	登樂遊原		李商隱
ずさまじきもの			涼州詞		王之渙
中納言参り給ひて			江南春		杜牧
宮に初めて参りたるころ			杜少府之任蜀州		王勃
雪のいと高う降りたるを			黄鶴樓		崔顥
忠度の都落ち	平家物語		桂林莊雜詠示諸生		広瀬淡窓
壇の浦の合戦	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	題自画		夏目漱石
この世のほか			鴻門之会	史記	司馬遷
安元の大火	方丈記	鴨長明	四面楚歌		
ゆく河の流れ	徒然草	兼好法師	項王自刎		
家居のつきづきしく			吾所以有天下者何	論語	
悲田院の堯蓮上人は			吾道一以貫之(7編)	懐思録	貝原益軒
世に従はん人は	玉勝間	本居宣長	人非聖人	孟子	
花は盛りに			仁人心也、義人路也		
兼好法師が詞のあげつらひ	更級日記	菅原孝標女	性之善也、猶水之就下	荀子	荀況
門出			人之生悪		
物語	蜻蛉日記	藤原道綱母	大道廢、有仁義	老子	老聃
なげきつつひとり寝る夜			無用之用		
あまぐもにそる鷹	大鏡		曳尾於塗中	莊子	莊周
道真の左遷			小時了了	世説新語	劉義慶
花山天皇の出家			長安何如日遠		
道長、伊周の競射			夜行逢鬼	太平広記	李昉
三船の才			桃夭		
肝試し			行行重行行		
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	野田黄雀行		曹植
若紫			飲酒		陶潜
万葉秀歌(10首)	万葉集	有間皇子、柿本人麻呂、高市黒人 山部赤人、大伴旅人、大伴家持	漁父辞		屈原
王朝秀歌(12首)	古今和歌集(3首)	紀貫之、小野小町、在原行平	春夜宴桃李園序		李白
	新古今和歌集(4首)	藤原定家、俊成女、西行法師、俊成	赤壁之戦	十八史略	曾先之
	拾遺和歌集(1首)	藤原公任	竭股肱之力		
	金葉和歌集(1首)	源俊頼	出師表		
	後拾遺和歌集(2首)	能因法師、和泉式部	秋浦歌	唐選詩	
金槐和歌集(1首)	源実朝	独坐敬亭山	早発白帝城		
梁塵秘抄	梁塵秘抄		月下独酌	唐詩三百首	
閑吟集	閑吟集		石壕吏	杜工部集	
小判は寝姿の夢	世間胸算用	井原西鶴	月夜		杜甫
和歌というメディア	心づくしの日本語-和歌でよむ古代の思想	ツベタナ・クリステワ	登高	唐詩選	
古典芸能への誘い			登岳陽樓		



「別紙2-1」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 東書331・332】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
小野篁、広才のこと	宇治拾遺物語		先從陳始	十八史略	曾先之	
能は歌詠み	古今著聞集	橘成季	不死之藥	韓非子		
割り持ちたる鏡	唐物語	藤原成範	完璧而帰	十八史略	曾先之	
初冠	伊勢物語		漱石枕流	世説新語	劉義慶	
すける物思ひ			創業守成	十八史略	曾先之	
渚の院			野中兼山	先哲叢談	原善	
つひにゆく道			宿建德江		孟浩然	
姨捨	大和物語		鹿柴		王維	
九月ばかり	枕草子	清少納言	秋風引		劉禹錫	
すさまじきもの			登楽遊原		李商隱	
中納言参り給ひて			涼州詞		王之涣	
宮に初めて参りたるを			江南春		杜牧	
雪のいと高う降りたるを			杜少府之任蜀州		王勃	
文ことばなめき人こそ			黃鶴樓		崔顥	
忠度の都落ち			桂林莊雜詠示諸生		広瀬淡窓	
壇の浦の合戦			題自画		夏目漱石	
この世のほかに	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	鴻門之会	史記	司馬遷	
安元の大火	方丈記	鴨長明	四面楚歌			
日野山の閑居			項王自刎			
ゆく河の流れ	徒然草	兼好法師	吾所以有天下者何	論語	貝原益軒	
家居のつきづきしく			吾道一以貫之(7編)			
悲田院の堯蓮上人は			人非聖人	慎思録		
世に従はん人は			仁人心也、義人路也	孟子		
花は盛りに	君子有三樂					
兼好法師が詞のあげつらひ	玉勝間	本居宣長	性之善也、猶水之就下	荀子	荀況	
門出	更級日記	菅原孝標女	人之性悪			
物語			大道廢、有仁義			
なげきつつひとり寝る夜	蜻蛉日記	藤原道綱母	人之生也、柔弱	老子	老聃	
あまぐもにそる鷹			無用之用			
雲林院の菩提講	大鏡		曳尾於塗中	莊子	莊周	
道真の左遷			小時了了	世説新語	劉義慶	
花山天皇の出家			長安何如日遠			
道長、伊周の競射			夜行逢鬼	太平広記	李昉	
三船の才			桃夭			
肝試し			碩鼠			
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	行行重行行			
若紫	万葉集	有間皇子、柿本人麻呂、高市黒人	野田黄雀行		曹植	
万葉秀歌(10首)			山部赤人、大伴旅人、大伴家持	飲酒		陶潜
王朝秀歌(15首)	古今和歌集(4首)	紀貫之、凡河内躬恒、小野小町、在原行平	漁父辞		屈原	
	新古今和歌集(6首)		式子内親王、藤原定家、藤原家隆、西行法師、俊成、俊成女	五柳先生伝	陶潜	
	拾遺和歌集(1首)		藤原公任	春夜宴桃李園序	李白	
	金葉和歌集(1首)		源俊頼	赤壁之戦	十八史略	曾先之
	後拾遺和歌集(2首)		能因法師、和泉式部	竭股肱之力		
	金槐和歌集(1首)		源実朝	出師表		
梁塵秘抄	梁塵秘抄		所争不在米塩	日本外史	頼山陽	
			諸將服信玄			

「別紙2-1」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 東書331・332】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
閑吟集	閑吟集		秋浦歌		
小判は寝姿の夢	世間胸算用	井原西鶴	独坐敬亭山		李白
幼子さと	おらが春	小林一茶	早発白帝城		
和歌というメディア	心づくしの日本語-和歌でよむ古代の思想	ツベタナ・クリステワ	月下独酌		
古典芸能への誘い			夢李白		杜甫
成方といふ笛吹き	十訓抄		石壕吏		
留志長者のこと	宇治拾遺物語		月夜		杜甫
蓮花城、入水のこと	発心集	鴨長明	登高		
女郎花			登岳陽樓		
うきたる世	紫式部日記	紫式部	風蕭蕭兮易水寒	史記	司馬遷
日本紀の御局			図窮而七首見		
夢よりもはかなき世の中を	和泉式部日記	和泉式部	易水送別	唐詩選	駱賓王
有明の月に			俛出袴下		
駿河路	十六夜日記	阿仏尼	背水陳	史記	司馬遷
月影の谷			狡兔死、良狗亨		
東下り	伊勢物語		長恨歌	白氏長慶集	白居易
車争ひ			三月尽	和漢朗詠集	白居易、菅原道真、尊敬、凡河内躬恒、紀貫之
須磨の秋			桃花源記	陶淵明集	陶潜
母と子の別れ	源氏物語	紫式部	離魂記	太平広記	陳玄祐
夜深き鶏の声			礼之用、和為貴(4編)	論語	
萩の上露			無恒産無恒心	孟子	孟軻
やまと歌は	古今和歌集仮名序	紀貫之	無為之治	老子	
六歌仙			小国寡民		
鷹狩りの歌	俊頼髓脳	源俊頼	兵形象水	孫子	孫武
出で映えすべき歌のこと	無名抄	鴨長明	兼愛	墨子	
おもて歌のこと			母之愛子也	韓非子	
亡き人を恋ふる歌	正徹物語	正徹	侵官之害		
落窪の君	落窪物語		与孟東野書	韓昌黎集	韓愈
姫君の苦難			左遷至藍關、示姪孫湘		
このついで	堤中納言物語		捕蛇者説	柳河東集	柳宗元
夢に琵琶を教ふる人	夜の寝覚		漁翁	唐詩三百首	
清少納言			売油翁	歐陽文忠公集	歐陽脩
紫式部	無名草子		遠山		
文					
もののあはれの論	源氏物語玉の小櫛	本居宣長			
年来稽古条々	風姿花伝	世阿弥			
虚実皮膜論	虚実皮膜論	穂積以貫			
富士川	野ざらし紀行	松尾芭蕉			
吉野の花	笈の小文	松尾芭蕉			
芭蕉発句抄(10句)		松尾芭蕉			
月夜の卯兵衛		与謝蕪村			
歳末弁		与謝蕪村			
蕪村発句抄(10句)		与謝蕪村			
去来抄	去来抄	向井去来			
三冊子	三冊子	服部土芳			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
俳人汀砂と子葉	折々草	建部綾足			
倭建命	古事記				
桐壺	源氏物語	紫式部			
木の花は	枕草子	清少納言			
古文小計		(90)	漢文小計		(79)

「別紙2-1」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 三省堂333・334】(古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
小野篁、広才のこと	宇治拾遺物語		漱石枕流	世説新語	劉義慶
安養の尼上の小袖	十訓抄		畏饅頭	笑府	馮夢竜
やさし蔵人	今物語		糟糠之妻	後漢書	
九月ばかり			紀昌貫虱	蒙求	李瀚
すさまじきもの	枕草子	清少納言	王昭君	西京雜記	
中納言参り給ひて			不顧後患	說苑	劉向
雪のいと高う降りたるを			鹿柴		王維
かぐや姫の昇天	竹取物語		秋浦歌		李白
初冠			宿建德江		孟浩然
月やあらぬ			早発白帝城		李白
狩りの使ひ	伊勢物語		芙蓉楼送辛漸		王昌齡
小野の雪			楓橋夜泊		張繼
つひにゆく道			送杜少府之任蜀州		王勃
姨捨	大和物語		春夜喜雨		杜甫
あだし野の露消ゆる時なく			八月十五夜、禁中独直、对月憶元九		白居易
相模守時頼の母は			遊山西村		陸游
家居のつきづきしく	徒然草	兼好法師	鴻門之会		
世に語り伝ふること			項王暴挙	史記	司馬遷
世に従はん人は			四面楚歌		
ゆく河の流れ			項王最期		
養和の飢饉	方丈記	鴨長明	題烏江亭	杜樊川詩注	杜牧
日野山の閑居			漁父辞		屈原
小大進、北野の神助を被ること	古今著聞集		春夜宴桃李園序	古文真宝	李白
侍従大納言、駿者の改請を止むること	発心集	鴨長明	愛蓮説		周敦頤
丹後の国の成合のこと	古本説話集		送薛存義之任序	唐宋八大家文読本	柳宗元
光源氏の誕生			論語(4章)	論語	
藤壺の入内	源氏物語	紫式部	無恒産而有恒心者	孟子	
北山の垣間見			不忍人之心		
雲林院の菩提講			人之性悪	荀子	荀況
花山院の出家	大鏡		大道廢、有仁義		
弓争い			小国寡民	老子	老聃
あこがれ	更級日記	菅原孝標女	曳尾於塗中		
源氏の五十余巻			渾沌	莊子	莊周
なべて世のはかなきことを	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	壳鬼	搜神記	干宝
今や夢昔や夢と			陸機之犬	述異記	祖冲之
忠度の都落ち	平家物語		人虎伝	唐人説書	李景亮
能登殿の最期			冬夜読書		菅茶山
和歌十六首	万葉集(3首)	柿本人麻呂	泊天草洋		頼山陽
	古今和歌集(3首)	伊勢、紀貫之、よみ人知らず	桂林莊雜詠示諸生		広瀬淡窓
	後撰和歌集(1首)	元良親王	款冬一枝		飯田黙叟
	拾遺和歌集(2首)	藤原公任、惠慶法師	送夏目漱石之伊予		正岡子規
	後拾遺和歌集(1首)	和泉式部	題自画		夏目漱石
	千載和歌集(2首)	藤原俊成、周防内侍	航西日記	航西日記	森臨外
	新古今和歌集(2首)	藤原定家、藤原家隆	孟母断機	烈女伝	劉向
	山家集(1首)	西行法師	不死之薬	韓非子	
水無瀬三吟百韻(8句)	金槐和歌集(1首)	源実朝	江南橋為江北枳	說苑	劉向
		宗祇、肖柏、宗長	乱世之姦雄	十八史略	曾先之
		松永貞徳、西山宗因、小西来山、池西言水	三往、乃見	三国志	陳寿
近世俳諧(19句)		松尾芭蕉、宝井其角、服部嵐雪、向井去来	進遇於赤壁		
		与謝蕪村、小林一茶	股肱之力	十八史略	曾先之



「別紙2-1」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 三省堂333・334】(古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
笈の小文	笈の小文	松尾芭蕉	桃園結義	三国志通俗演義	
大晦日は合はぬ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴	桃夭		
木の花は			陟岵		
かたはらいたきもの			行行重行行		
二月つごもりごろに			生年不満百		
頭の弁の、職に参り給ひて	枕草子	清少納言	秋風辞		漢武帝
殿などのおはしまさでのち			飲酒		陶潜
宮に初めて参りたるころ			把酒問月		李白
大納言殿参り給ひて			兵車行		杜甫
この草子、目に見え心に思ふことを			長恨歌		白居易
高麗人の親相			人面桃花	本事詩	孟榮
麿院の怪			三夢記—劉幽求	唐人小説	白行簡
藤壺の里下がり			魚服記		李復言
車争ひ			天道是邪非邪		
心づくしの秋風			完璧帰趙		
明石の君の苦惱	源氏物語	紫式部	瀦池之会		
女三の宮の降嫁			勿頭之交	史記	司馬遷
萩の上露			風蕭蕭兮易水寒		
形見の文			國窮而七首見		
小野の里訪問			大丈夫当如此也		
夢の浮橋			大風起兮雲飛揚		
虫めづる姫君	堤中納言物語		何必日利	孟子	
初瀬の雲夢	住吉物語		性猶湍水也		
嵯峨野わたり	しのびね		青取之於藍、而青於藍	荀子	荀況
うつろひたる菊	蜻蛉日記		天下莫柔弱於水	老子	老聃
鷹を放つ		藤原道綱母	夢為胡蝶		
夢よりもはかなき世の中を	和泉式部日記	和泉式部	北冥有魚	莊子	莊周
秋のけはひ	紫式部日記	紫式部	愚公移山	列子	列禦寇
和泉式部と清少納言			聖人不期修古	韓非子	韓非
東風吹かば			非攻	墨子	墨翟
宣耀殿の女御			売油翁	婦田録	歐陽脩
最後の除目			捕蛇者説	唐宋八大家文読本	柳宗元
三舟の才	大鏡		赤壁賦	古文真宝	蘇軾
肝試し			師説		韓愈
道長と詮子					
鶯宿梅					
今さらのご対面	栄花物語				
世の響き					
やまと歌は	古今和歌集仮名序	紀貫之			
鷹狩りの歌	俊頼髓脳	源俊頼			
清少納言	無名草子				
紫式部					
深草の里	無名抄	鴨長明			
心と詞	毎月抄	藤原定家			
一字の違ひ	正徹物語	正徹			
亡き人恋ふる					
秘すれば花	風姿花伝	世阿弥			
行く春を	去来抄	向井去来			
岩鼻や					
虚実皮膜の間	難波土産				
師の説と違へること多く	玉勝間				
もののあはれ	源氏物語玉の小櫛	本居宣長			
古文小計		(92)	漢文小計		(84)

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 三省堂335】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
博雅の三位と鬼の笛	十訓抄	六波羅二藤左衛門	季札挂劍	蒙求	李瀚
小野篁、広才のこと	宇治拾遺物語		漱石枕流	世説新語	劉義慶
大江山	古今著聞集	橘成季	畏饑頭	笑府	憑夢竜
あだし野の露消ゆる時なく	徒然草	兼好法師	梁上君子	後漢書	范曄
悲田院の堯蓮上人は			病入膏肓	春秋左氏伝	左丘明
家居のつきつきしく			紀昌貫虱	蒙求	李瀚
五月五日、賀茂の競べ馬を			鹿柴		王維
世に従はん人は			宿建德江		孟浩然
ゆく河の流れ	方丈記	鴨長明	春夜洛城聞笛		李白
養和の飢饉			別董大		高適
日野山の閑居			涼州詞		王之涣
かぐや姫の昇天	竹取物語		送友人		李白
初冠			月夜		杜甫
月やあらぬ	伊勢物語		八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九		白居易
行く螢			遊山西村		陸游
小野の雪			鴻門之会	史記	司馬遷
つひにゆく道	四面楚歌				
姨捨	大和物語		項王最期		
春はあけぼの	枕草子	清少納言	題烏江亭	杜樊川詩注	杜牧
すさまじきもの			桃花源記	陶淵明集	陶潜
中納言参り給ひて			愛蓮説	古文真宝	周敦頤
雪のいと高う降りたるを	漁父辞	屈原			
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	春夜宴桃李園序		李白
藤壺の入内			論語(3章)	論語	
北山の垣間見			無恒産而有恒心者	孟子	
花山院の出家	大鏡		不忍人之心		
弓争ひ			人之性悪	荀子	荀况
雲林院の菩提講			大道廢、有仁義	老子	老聃
あこがれ	更級日記	菅原孝標女	小国寡民		
源氏の五十余巻			曳尾於塗中	莊子	莊周
なべて世のはかなきことを	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	渾沌		
忠度の都落ち	平家物語		酒虫	聊齋志異	蒲松齡
能登殿の最期	古事記		人虎伝	唐人説書	李景亮
倭建の東征			冬夜読書		菅茶山
和歌十六首	万葉集(3首)	柿本人麻呂	泊天草洋		頼山陽
	古今和歌集(3首)	伊勢、紀貫之、よみ人知らず	桂林莊雜詠示諸生		広瀬淡窓
	後撰和歌集(1首)	元良親王	送夏目漱石之伊予		正岡子規
	拾遺和歌集(2首)	藤原公任、惠慶法師	題自画		夏目漱石
	後拾遺和歌集(1首)	和泉式部	航西日記		森鷗外
	千載和歌集(2首)	藤原俊成、周防内侍	不願後患	説苑	劉向
	新古今和歌集(2首)	藤原定家、藤原家隆	三横	世説新語	劉義慶
	山家集(1首)	西行法師	不死之薬	韓非子	
	金槐和歌集(1首)	源実朝	乱世之姦雄	十八史略	曾先之
近世俳諧(19句)		松永貞徳、西山宗因、小西来山、池西言水	三往、乃見	三国志	陳寿
		松尾芭蕉、宝井其角 服部嵐雪、向井去来	進遇於赤壁		
		与謝蕪村、小林一茶	股肱之力	十八史略	曾先之

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 三省堂335】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
野ざらし紀行	野ざらし紀行	松尾芭蕉	桃夭			
ありがたきもの			陟岵			
木の花は	枕草子	清少納言	生年不満百			
二月つごもりごろに			秋風辞		漢武帝	
大納言参り給ひて			飲酒		陶潜	
麿院の怪	源氏物語	紫式部	子夜呉歌		李白	
心づくしの秋風			兵車行		杜甫	
明石の君の苦惱			人面桃花		孟棨	
萩の上露			葉限		段成式	
うつろひたる菊	蜻蛉日記	藤原道綱母	完璧帰趙	史記	司馬遷	
鷹を放つ		瀧池之会				
夢よりもはかなき世の中を	和泉式部日記	和泉式部	刎頸之交			
秋のけはひ	紫式部日記	紫式部	風蕭蕭兮易水寒			
和泉式部と清少納言			囚窮而七首見			
東風吹かば	大鏡		捕蛇者説	唐宋八大家文読本	柳宗元	
都府楼の鐘				赤壁賦	古文真宝	蘇軾
最後の除目				何必曰利	孟子	
三舟の才				性猶湍水也	荀子	
肝試し			青取之於藍、而青於藍	荀子	荀況	
やまと歌は	古今和歌集仮名序	紀貫之	天下莫柔弱於水	老子	老聃	
沓冠折句の歌	俊頼髓脳	源俊頼	夢為胡蝶	莊子	莊周	
文	無名草子		北冥有魚			
深草の里	無名抄	鴨長明	愚公移山	列子	列禦寇	
心と詞	毎月抄	藤原定家	聖人不期修古	韓非子	韓非	
待つ恋	正徹物語	正徹	非攻	墨子	墨翟	
下手は上手の手本	風姿花伝	世阿弥	長恨歌	古文真宝	白居易	
行く春を	去来抄	向井去来				
岩鼻や						
もののあはれ	源氏物語玉の小櫛	本居宣長				
大晦日は合わせ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴				
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成				
桐壺	源氏物語	紫式部				
七月七日	更級日記	菅原孝標女				
古文小計			漢文小計			
(69)			(72)			

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 教出336・337】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
児の知恵	沙石集	無住	漱石枕流	世説新語	劉義慶
能は歌詠み	古今著聞集	橋成季	断腸		
成方と名笛	十訓抄	六波羅二膳左衛門	画竜点睛	歴代名画記	張彦遠
袴垂と保昌	宇治拾遺物語		知音	呂氏春秋	呂不韋
家居のつきつきしく			梁上君子	後漢書	范曄
明日香川の淵瀬	徒然草	兼好	王昭君	西京雜記	葛洪
人の亡きあとばかり			江南橋為江北枳	說苑	劉向
九月二十日の頃			鄧哀王曹冲	三国志	陳寿
行く川の流れ			鹿柴		王維
養和の飢饉	方丈記	鴨長明	秋浦歌		李白
日野山の閑居			秋風引		劉禹錫
春はあけぼの	枕草子	清少納言	望廬山瀑布		李白
すさまじきもの			楓橋夜泊		張繼
中納言参り給ひて			涼州詞		王之涣
初冠			芙蓉楼送辛漸		王昌齡
関守			月夜		杜甫
梓弓	伊勢物語		除夜寄弟妹		白居易
狩りの使ひ			黄鶴楼		崔顥
目離れせぬ雪			登高		杜甫
峰のみみぢ葉			桃夭		詩經
後に会はむと	大和物語		行行重行行		文選
姨捨山			飲酒		陶淵明
阿倍仲麻呂の歌	土佐日記	紀貫之	硯炭翁 苦宮市也		白居易
黒鳥のもと			若き日の両雄		
東路の道の果て			鴻門の会	史記	司馬遷
竹芝寺			四面楚歌		
継母との別れ	更級日記	菅原孝標の女	項王の最期		
『源氏』の五十余巻			春夜宴桃李園序	古文真宝後集	李白
をかしげなる猫			漁父辞	楚辞	屈原
後の頼み			桃花源記	陶淵明集	陶淵明
蓬萊の玉の枝	竹取物語		論語(8章)	論語	
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	不忍人之心	孟子	孟軻
若紫との出会ひ			人之性悪	荀子	荀況
虫愛づる姫君	堤中納言物語		小国寡民	老子	老聃
王朝の歌(12首)	古今和歌集(3首)	紀貫之、凡河内躬恒、小野小町	三十幅共一轂	老子	老聃
	拾遺和歌集(2首)	藤原公任、藤原敦忠	渾沌	莊子	莊周
	後拾遺和歌集(2首)	紫式部、和泉式部	廁足而墊之	莊子	莊子
	新古今和歌集(5首)	後鳥羽上皇、藤原俊成、藤原俊成、藤原定家、西行	侵官之害	韓非子	韓非
			禿鬼	搜神記	干宝
舞へ舞へ蝸牛	梁塵秘抄(4首)		人面桃花	本事詩	孟棻
雲林院の菩提講			冬夜読書		管茶山
花山天皇の出家	大鏡		桂林莊雜詠示諸生		広瀬淡窓
南院の競射			送夏目漱石之伊予		正岡子規
鶯宿梅			題自画		夏目漱石
宮内卿和歌のほまれ			題不識庵擊機山図	山陽詩鈔	頼山陽
鏡の袖	増鏡		敵に塩を送る	日本外史	頼山陽
新島守			季札挂剣	史記	司馬遷
忠度都落ち	平家物語		糟糠之妻	後漢書	范曄
能登殿最期			長安何如日遠	世説新語	劉義慶
面影ばかり	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	三横	世説新語	劉義慶
黄泉つひら坂	古事記		鼓腹擊壤	十八史略	曾先之

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 教出336・337】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名				
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等		
万葉の歌	万葉集(12首)	雄略天皇、柿本人麻呂、大伴旅人、聖徳太子、額田王、山上憶良、山部赤人、大伴坂上郎女、高橋虫麻呂、作者未詳、大伴家持	伯夷・叔齊	史記	司馬遷		
行く春を 岩鼻や	去来抄	向井去来	宋襄の仁	春秋左氏伝	左丘明		
銀河の序		松尾芭蕉	孫臏	十八史略	曾先之		
菊花の約	雨月物語	上田秋成	荆軻				
宮に初めて参りたる頃	枕草子	清少納言	蘇武持節	史記	司馬遷		
御方々、君達、上人など			赤壁の戦ひ				
無名といふ琵琶の御琴を			月下独酌			李白	
『古今』の草子を			石壕吏			杜甫	
大納言殿参り給ひて			代悲白頭翁			劉延芝	
二月つごもり頃に			長恨歌			白居易	
殿などのおはしまさで後			完璧帰趙			司馬遷	
この草子、目に見え、心に思ふことを			渑池の会				
道真左遷			勿頭之交			司馬遷	
師輔の夢			売油翁				
中宮安子の嫉妬	大鏡		捕蛇者説	唐宋八家文読本	柳宗元		
兼通と兼家の確執			師説	古文真室後集	韓愈		
若き日の道長			無恒産無恒心	孟子			
女院詮子の道長びいき			勸学	荀子	荀況		
三船の才			不尚賢	老子	老聃		
嘆きつつ	蜻蛉日記	藤原道綱の母	治馬	莊子	莊周		
鷹を放つ			公私相背	韓非子	韓非		
若宮誕生	紫式部日記	紫式部	非攻	墨子	墨翟		
日本紀の御局	源氏物語	紫式部	千日酒	搜神記	干宝		
帥の宮からの便り			和泉式部日記	和泉式部	離魂記	太平広記	陳玄祐
帥の宮の訪れ							
しるしの箱			讃岐典侍日記	藤原長子			
藤壺の宮の入内							
身のほどを知る空蟬							
夕顔の死							
臘月夜との出会ひ							
葵の上に取り憑く物の怪							
明石の君の苦惱							
女三の宮の降嫁							
紫の上の死							
やまと歌	古今和歌集仮名序	紀貫之					
六歌仙評							
歌の、八つの病の中に	俊頼髓脳	源俊頼					
俊成自讃歌のこと	無名抄	鴨長明					
心と言葉	毎月抄	藤原定家					
一字の違い	正徹物語	正徹					
師の風雅	三冊子	服部土芳					
虚実皮膜の論	難波土産	穂積以貫					
ものあはれ	源氏物語玉の小櫛	本居宣長					
兼好法師への批判	玉勝間						
花は盛りに	徒然草	兼好					
古文小計		(93)	漢文小計		(75)		

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 教出338】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
児の知恵	沙石集	無住	漱石枕流	世説新語	劉義慶
成方と名笛	十訓抄		画竜点睛	歴代名画記	
袴垂と保昌	宇治拾遺物語		梁上君子	後漢書	
家居のつきづきしく			王昭君	西京雜記	
人の亡きあとばかり	徒然草	兼好	江南橋為江北枳	說苑	
九月二十日の頃			鄧哀王曹冲	三国志	陳寿
行く川の流れ	方丈記	鴨長明	鹿柴		王維
養和の飢饉			秋浦歌		李白
すさまじきもの	枕草子	清少納言	秋風引		劉禹錫
中納言参り給ひて			望廬山瀑布		李白
初冠			楓橋夜泊		張繼
関守			涼州詞		王之涣
梓弓	伊勢物語		芙蓉楼送辛渐		王昌齡
狩りの使ひ			月夜		杜甫
目離れせぬ雪			除夜寄弟妹		白居易
峰のもみぢ葉	大和物語		登高		杜甫
姨捨山			桃夭		
阿倍仲麻呂の歌	土佐日記	紀貫之	行行重行行		
黒鳥のもと			飲酒		陶淵明
東路の道の果て			売炭翁		白居易
継母との別れ	更級日記	菅原孝標の女	鴻門の会	史記	
『源氏』の五十余巻			四面楚歌		司馬遷
後の頼み			項王の最期		
光源氏の誕生	源氏物語	紫式部	春夜宴桃李園序	古文真宝後集	李白
若紫との出会ひ			漁父辞	楚辞	屈原
虫愛づる姫君	堤中納言物語		桃花源記	陶淵明集	陶淵明
王朝の歌(12首)	古今和歌集(3首)	紀貫之、凡河内躬恒、小野小町	論語(8章)	論語	
	拾遺和歌集(2首)	藤原公任、藤原敦忠	不忍人之心	孟子	
	後拾遺和歌集(2首)	紫式部、和泉式部	人之性悪	荀子	荀况
	新古今和歌集(5首)	後鳥羽上皇、藤原俊成の女、藤原俊成、藤原定家、西行	小国寡民	老子	老聃
雲林院の菩提講		渾沌	莊子	莊周	
花山天皇の出家	大鏡	侵官之害	韓非子	韓非	
南院の競射		売鬼	搜神記	干宝	
宮内卿和歌のほまれ		人面桃花	本事詩	孟棻	
鎧の袖	増鏡	冬夜読書		菅茶山	
新島守		桂林荘雜詠示諸生		広瀬淡窓	
忠度都落ち	平家物語	送夏日漱石之伊予		正岡子規	
能登殿最期		題自画		夏日漱石	
面影ばかり	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	題不識庵擊機山図	山陽詩鈔	頼山陽
黄泉つひら坂	古事記		敵に塩を送る	日本外史	
万葉の歌(12首)	万葉集	雄略天皇、柿本人麻呂、大伴旅人、聖徳太子、額田王、山上憶良、山部赤人、大伴坂上郎女、高橋虫麻呂、作者未詳、大伴家持	季札挂劍	史記	司馬遷
			糟糠之妻	後漢書	范曄
			長安如何日遠	世説新語	劉義慶
行く春を 岩鼻や	去来抄	向井去来	三横		
			鼓腹撃壤	十八史略	曾先之
			伯夷・叔齊	史記	司馬遷

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 教出338】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
菊花の約	雨月物語	上田秋成	宋襄の仁	春秋左氏伝	
宮に初めて参りたる頃	枕草子	清少納言	荆軻	十八史略	曾先之
無名といふ琵琶の御琴を			蘇武持節		
『古今』の草子を			赤壁の戦ひ		
大納言参り給ひて			子夜呉歌	李白	
二月つごもり頃に			胡笳歌	岑参	
師輔の夢	大鏡		石壕吏		杜甫
中宮安子の嫉妬			長恨歌	白居易	
兼通と兼家の確執			完璧帰趙	史記	司馬遷
若き日の道長			灑池の会		
女院詮子の道長びいき			刎頸之交		
三船の才			売油翁	帰田録	欧陽脩
嘆きつつ	蜻蛉日記	藤原道綱の母	送薛存義序	古文真宝後集	柳宗元
鷹を放つ	紫式部日記	紫式部	師説	古文真宝後集	韓愈
若宮誕生			無恒産無恒心	孟子	
里居のもの思ひ	和泉式部日記	和泉式部	勸学	荀子	荀況
帥の宮からの便り			人之生也柔弱	老子	老聃
帥の宮の訪れ			治馬	莊子	莊周
しるしの箱	讃岐典侍日記	藤原長子	公私相背	韓非子	韓非
藤壺の宮の入内	源氏物語	紫式部	千日酒	搜神記	干宝
身のほどを知る空蟬			離魂記	太平広記	陳玄祐
朧月夜との出会ひ					
葵の上に取り憑く物の怪					
明石の君の苦惱					
女三の宮の降嫁					
紫の上の死	無名草子	女君評			
無名草子 女君評	無名抄	鴨長明			
俊成自讃歌のこと	毎月抄	藤原定家			
心と言葉	正徹物語	正徹			
一字の違ひ	三冊子	服部土芳			
師の風雅	難波土産	穂積以貴			
虚実皮膜の論	源氏物語玉の小櫛	本居宣長			
もののあはれ	玉勝間				
師の説になづまざること	古今著聞集	橘成季			
古今著聞集 定家の勅勸					
古文小計		(75)	漢文小計		(67)

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 大修館339・340】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名				
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等		
検非違使忠明のこと	宇治拾遺物語		古今和歌集(真名)序	古今和歌集真名序	紀淑望		
大江山いくのの道	十訓抄		知音	呂氏春秋	呂不韋		
狼と母牛	今昔物語集		画竜点睛	歴代名画記	張彦遠		
家居のつきづきしく	徒然草	兼好法師	両頭蛇	蒙求	李瀚		
応長のころ、伊勢の国より			漱石枕流	世説新語	劉義慶		
名を聞くより			糟糠之妻	後漢書	范曄		
世に語り伝ふること			塞翁馬	淮南子	劉安		
今日はそのことをなさんと思へど			竹里館		王維		
丹波に出雲といふ所あり			六月二十七日望湖樓醉書		蘇軾		
行く河の流れ			勸酒		于武陵		
安元の大火	方丈記	鴨長明	贈別	杜牧			
日野山の閑居	竹取物語		送友人		李白		
かぐや姫の昇天			碩中作		岑參		
初冠			峨眉山月歌		李白		
月やあらぬ			登岳陽樓		杜甫		
関守			月夜		杜甫		
狩りの使ひ			咸陽城東樓		許渾		
渚の院			山中問答		李白		
つひにゆく道			遊山西村		陸游		
すさまじきもの			枕草子	清少納言	彼取りて代はるべきなり	史記	司馬遷
木の花は					大丈夫当に此くのごとくなるべきなり		
中納言参りたまひて	沛公項王に見ゆ						
二月つごもりごろに	樊噲目を噴らして項王を視る						
九月ばかり			四面皆楚歌す				
雲林院の菩提講	大鏡		我何の面目ありて之に見えん				
道真左遷			桃花源記	陶淵明集	陶潜		
競べ弓			捕蛇者説	唐宋八家文読本	柳宗元		
花山院の出家	平家物語		孔子と門人たち(5編)	論語			
忠度都落ち			不忍人之心	孟子			
能登殿最期			人之性悪	荀子	荀況		
静の白拍子	義経記		性猶湍水也	孟子			
羽根	土佐日記	紀貫之	子路問君子	論語			
阿倍仲麻呂の歌			子之武城、聞弦歌之声				
白波			何必日利	孟子			
あこがれ	更級日記	菅原孝標の女	冬夜読書		菅茶山		
源氏の五十余巻			桂林荘雜詠示諸生		広瀬淡窓		
猫			将東遊題壁		月性		
桐壺(一)	源氏物語	紫式部	題自画		夏目漱石		
桐壺(二)			所争在弓箭	日本外史			
桐壺(三)			題不識庵擊機山図	山陽詩鈔	頼山陽		
若紫			定伯売鬼	搜神記	干宝		
万葉集(11首)	万葉集	額田王、大日皇女、大津皇子、柿本人麻呂、山部赤人、大伴旅人、山上憶良、大伴家持、玉造部広目	定婚店 奇貨居くべし 子楚を適嗣と為す	続玄怪録	李復言		
仮名序一六歌仙の歌	古今和歌集	僧正遍昭、在原業平、文屋康秀、喜撰、小野小町、大伴黒主	太子の政立ちて王と為る	史記	司馬遷		
撰者の歌			紀貫之、壬生忠岑、凡河内躬恒、紀友則			丹怨みて亡げ帰る	
新古今和歌集(6首)	新古今和歌集	後鳥羽院、寂蓮法師、西行法師、藤原定家、藤原良経、式子内親王	風蕭蕭として易水寒し 図窮まりて七首見る	史記	司馬遷		



「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 大修館339・340】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
梁塵秘抄(4首)		後白河法皇	桃夭		
閑吟集(4首)			行行重行行		
芭蕉・蕪村・一茶(16句)		松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶	飲酒		陶潜
市中の巻(6句)	市中の巻	野沢凡兆、松尾芭蕉、向井去来	子夜呉歌		李白
源義家、衣川にて安倍貞任と連歌のこと	古今著聞集	橘成季	石壕吏		杜甫
馬盗人	今昔物語集		炭翁苦宮市也		白居易
唐に卒塔婆血つくこと	宇治拾遺物語		師説	唐宋八家文読本	韓愈
うれしきもの			春夜宴桃李園序	古文真宝後集	李白
五月ばかりなどに山里にありく			大道庵、有仁義	老子	
上にさぶらふ御猫は	枕草子	清少納言	小国寡民		
頭の弁の、職に参りたまひて			渾沌	莊子	莊周
この草子、目に見え心に思ふことを			曳尾於塗中		
をばすて	大和物語		侵官之害	韓非子	韓非
虫めづる姫君	堤中納言物語		処知則難		
三船の才			兵者、不祥之器	老子	老聃
肝だめし	大鏡		兼相愛	墨子	墨翟
鶯宿梅			母之愛子也	韓非子	韓非
町の小路の女	蜻蛉日記	藤原道綱の母	長恨歌	古文真宝前集	白居易
鷹			才を待みて倨傲なり		
薫る香に	和泉式部日記	和泉式部	道に虎有り		
土御門邸の秋			化して異獣と為り、人に覗づる有り	人虎伝	李景亮
和泉式部と清少納言	紫式部日記	紫式部	我將に託する所有らんとす		
駿河路			再び此の途に遊ぶこと無かれ		
月影の谷	十六夜日記	阿仏尼			
葵					
須磨					
薄雲					
若菜上(一)	源氏物語	紫式部			
若菜上(二)					
御法					
橋姫					
やまと歌	古今和歌集仮名序	紀貫之			
紫式部のこと	無名草子				
おもて歌	無名抄	鴨長明			
連歌は心より起こりて	連理秘抄	二条良基			
因果の花	風姿花伝	世阿弥			
沓冠の折句	正徹物語	正徹			
隅田川		親世十郎元雅			
道行	曾根崎心中	近松門左衛門			
造化にしたがひ造化にかへれ	笈の小文	松尾芭蕉			
不易と変化	三冊子	服部土芳			
行く春を	去来抄	向井去来			
虚実皮膜の論	難波土産	三木平右衛門			
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長			
海幸山幸	古事記				
大晦日は合はぬ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
翼をならべ、枝をかかさむ	源氏物語	紫式部			
七月七日	更級日記	菅原孝標の女			
梨花一枝	枕草子	清少納言			
古文小計		(95)	漢文小計		(71)

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 大修館341】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
検非違使忠明のこと	宇治拾遺物語		古今和歌集(真名)序	古今和歌集真名序	紀淑望
大江山いくの道の	十訓抄	六波羅二藤左衛門	助長	孟子	
家居のつきつきしく			知音	呂氏春秋	呂不韋
応長のころ、伊勢の国より			画竜点睛	歴代名画記	張彦遠
名を聞くより	徒然草	兼好法師	漱石枕流	世説新語	劉義慶
世に語り伝ふること			糟糠之妻	後漢書	范曄
今日はそのことをなさんと思へど			塞翁馬	淮南子	劉安
行く河の流れ			彼取りて代はるべきなり		
安元の大火	方丈記	鴨長明	大丈夫当に此くのごとくなるべきなり		
日野山の閑居			沛公項王に見ゆ	史記	司馬遷
かぐや姫の昇天	竹取物語		樊噲目を噴らして項王を視る		
初冠			四面皆楚歌す		
月やあらぬ	伊勢物語		我何の面目ありて之に見えん		
関守			尋胡隱君		高啓
つひにゆく道			竹里館		王維
木の花は			秋浦歌		李白
中納言参りたまひて	枕草子	清少納言	江南春		杜牧
二月つごもりに			春夜		蘇軾
九月ばかり			哭晁卿衡		李白
雲林院の菩提講			磧中作		岑参
競べ弓	大鏡		送友人		李白
花山院の出家			月夜		杜甫
宇治川の先陣	平家物語		登高		杜甫
能登殿最期			咸陽城東樓		許渾
羽根	土佐日記	紀貫之	桂林莊雜詠示諸生		広瀬淡窓
白波			将東遊題壁		月性
あこがれ	更級日記	菅原孝標の女	題自画		夏目漱石
源氏の五十余巻			桃花源記		陶潜
桐壺	源氏物語	紫式部	捕蛇者説		柳宗元
藤壺の入内			孔子と門人たち(5編)	論語	
若紫			不忍人之心	孟子	
万葉集(11首)	万葉集	額田王、大伯皇女、大津皇子、柿本人麻呂、山部赤人、大伴旅人、山上憶良、大伴家持、玉造部広目	人之性悪	荀子	荀況
			性猶湍水也	孟子	
			政治のありかた(2編)	論語	
仮名序一六歌仙の歌	古今和歌集	僧正遍照、在原業平、文屋康秀、喜撰、小野小町、大伴黒主	何必曰利	孟子	
撰者の歌		紀貫之、壬生忠岑、凡河内躬恒、紀友則	定伯売鬼	搜神記	干宝
新古今和歌集(6首)	新古今和歌集	後鳥羽院、寂蓮法師、西行法師、藤原定家、藤原良経、式子内親王	定婚店	続玄怪録	李復言
梁塵秘抄(4首)		後白河法皇	長安何如日遠	世説新語	劉義慶
閑吟集(4首)			不死之薬	韓非子	韓非子
芭蕉・蕪村・一茶(16句)		松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶	売油翁	帰田録	歐陽脩
源義家、衣川にて安倍貞任と連歌のこと	古今著聞集	橘成季	仁齋赤貧	先哲叢談	原念齋
馬盗人	今昔物語集		風蕭蕭として易水寒し	史記	司馬遷
			図窮まりて七首見る		

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 大修館341】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
うれしきもの	枕草子	清少納言	易水送別	唐詩選	
上にさぶらふ御猫は			桃夭		
頭の弁の、職に参りたまひて			行行重行行		
この草子、目に見え心に思ふことを			飲酒	陶潜	
をばすて	大和物語		子夜呉歌	李白	
道真左遷	大鏡		石壕吏	杜甫	
三船の才			売炭翁苦宮市也	白居易	
肝だめし			師説	韓愈	
鶯宿梅			春夜宴桃李園序	李白	
町の小路の女	蜻蛉日記	藤原道綱の母	小国寡民	老子	老聃
薫る香に	和泉式部日記	和泉式部	渾沌	莊子	莊周
和泉式部と清少納言	紫式部日記	紫式部	曳尾於塗中		
葵	源氏物語	紫式部	侵官之害	韓非子	韓非子
須磨			処知則難		
若菜上			兵者、不祥之器	老子	老聃
御法			兼相愛	墨子	墨子墨翟
橋姫	古今和歌集仮名序	紀貫之	母之愛子也	韓非子	韓非子
やまと歌			長恨歌	古文真宝前集	白居易
おもて歌			才を待みて倨傲なり		
因果の花			道に虎有り	人虎伝	李景亮
不易と変化	三冊子	服部土芳	化して異獣と為り、人に醜づる有り		
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長	我將に託する所有らんとす		
大晦日は合はぬ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴	再び此の途に遊ぶこと無かれ		
夢応の鯉魚	雨月物語	上田秋成			
道行	曾根崎心中	近松門左衛門			
唐土にて月を見てよみける	古今和歌集	阿倍仲麻呂			
翼をならべ、枝をかかさむ	源氏物語	紫式部			
七月七日	更級日記	菅原孝標の女			
梨花一枝	枕草子	清少納言			
古文小計			(69)	漢文小計	
				(66)	

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 大修館342】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
安倍晴明と百鬼夜行	今昔物語集		香炉峰下、新たに山居をとし、草堂初めて成り、偶東壁に題す	白氏文集	白居易
一寸法師	御伽草子		漁父之利	戦国策	劉向
かぐや姫の昇天	竹取物語		借虎威		
今日はそのことをなさんと思へど	徒然草	兼好法師	朝三暮四	列子	列禦寇
丹波に出雲といふ所あり			絶句		杜甫
断章三編			秋浦歌		李白
行く河の流れ	方丈記	鴨長明	竹里館		王維
初冠	伊勢物語		贈別		杜牧
あづま下り			題自画		夏目漱石
うしろむき	今物語		送友人		李白
門出	土佐日記	紀貫之	秋興		杜甫
忘れ貝			鴻門の会		司馬遷
あこがれ	更級日記	菅原孝標の女	四面楚歌	史記	
源氏の五十余巻			理想の人間像(3編)	論語	
祇園精舎	平家物語		居天下之広居	孟子	
木曾の最期			不忍人之心		
静の白拍子	義経記		人之性悪	荀子	荀況
百人一首の恋の歌	百人一首	大岡信	桃花源記	陶淵明集	陶潜
お七と吉三郎	好色五人女	井原西鶴	古譚	古譚	茨木のり子
道行	曾根崎心中	近松門左衛門	子罕弗受玉	春秋左氏伝	
児の飴食ひたること	沙石集	無住	不死之薬	韓非子	韓非
高陽親王のからくり人形	今昔物語集		先從隗始	十八史略	曾先之
十二の「子」文字	宇治拾遺物語		桃夭	詩経	
中納言参りたまひて	枕草子	清少納言	飲酒	陶淵明集	陶潜
野分のまたの日こそ			子夜呉歌	唐詩選	李白
大蔵卿ばかり			石壕吏	杜工部集	杜甫
雪のいと高う降りたるを			雑説	唐宋八家文読本	韓愈
道真左遷					
競べ弓	大鏡		水魚の交わり	十八史略	曾先之
鶯宿梅			劉備の死		
和泉式部と清少納言	紫式部日記	紫式部	諸葛亮の死		
町の小路の女	蜻蛉日記	藤原道綱の母	無為而無不為	老子	老聃
桐壺	源氏物語	紫式部	小国寡民		
若紫			渾沌	莊子	莊周
発句でたどる『奥の細道』	奥の細道	松尾芭蕉	僂官之害	韓非子	韓非
行く春を	去来抄	向井去来	枕中記	文苑英華	沈既濟
漁父の利	漁父の利	小林一茶	黄梁夢	芥川龍之介	
をばすて	大和物語				
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
古文小計			漢文小計		
(39)			(36)		

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 数研343・344】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
大江山	十訓抄		賈履忘度	韓非子	韓非
兼盛と忠見	沙石集		漱石枕流	世説新語	劉義慶
伴大納言の事	宇治拾遺物語		華歆・王朗	歷代名画記	張彦遠
初冠			画電点晴	説苑	劉向
通ひ路の関守	伊勢物語		江南橋為江北枳	鹿柴	王維
渚の院			勸酒	尋胡隱君	高啓
をばすて山	大和物語		山中対酌	嶺中作	李白
鳥飼の院			江南春	澄邁駅通潮閣	岑參
春はあけぼの			雨中登岳陽樓望君山	旅夜書懷	杜甫
すさまじきもの			黃鶴樓	寄李儋・元錫	崔顥
虫は	枕草子	清少納言	鴻門の会	四面楚歌	司馬遷
御前にて、人々とも			項王自刎	漁父辭	屈原
大納言殿参り給ひて			桃花源記	春夜宴桃李園序	陶淵明
東路の果て	更級日記	菅原孝標女	論語(2編)	不忍人之心	孟子
物語			性善	性悪	荀子
光源氏誕生	源氏物語	紫式部	無為之治	無用之用	老子
藤壺の入内			小国寡民	曳尾於塗中	莊子
小柴垣のもと			夢為胡蝶	木鷄	韓非子
ゆく河の流れ	方丈記	鴨長明	侵官之害	知彼知己百戰不殆	孫子
養和の飢饉			風林火山	非攻	墨子
閑居の気味				知音	呂氏春秋
あだし野の露	徒然草	兼好法師		梁上君子	後漢書
九月二十日のころ				三横	世説新語
平宣時、最明寺入道を語る				売鬼	搜神記
雲林院の菩提講				人面桃花	本事詩
花山天皇の出家	大鏡			酒虫	聊齋志異
三船の才				落雷裁判	閑微草堂筆記
道長の剛胆				桃夭	
南院の競射				迢迢牽牛星	
忠度の都落ち	平家物語			代悲白頭翁	劉希夷
壇ノ浦				子夜吳歌	李白
なべて世の	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫		兵車行	杜甫
大原まうで				売油翁	歐陽脩
やまと歌は	古今和歌集仮名序	紀貫之			
六歌仙					
和歌・歌謡	万葉集(5首)	柿本人麻呂、大伴旅人、大伴家持			
	古今集(2首)	凡河内躬恒、紀貫之			
	拾遺集(1首)	藤原公任			
	後拾遺集(1首)	和泉式部			
	新古今集(3首)	藤原俊成、藤原定家、西行			
	遠島御百首(1首)	後鳥羽院			
	金槐和歌集(1首)	源実朝			
	玉葉集(1首)	京極為兼			
	草根集(1首)	正徹			
	良寛歌集(1首)	良寛			
	桂園一枝(1首)	香川景樹			
	志濃夫廼舎歌集(1首)	橘曙寛			
	梁塵秘抄(2首)				
	閑吟集(4首)				

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 数研343・344】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
江戸俳諧・発句	山の井(1句)	松永貞徳	天下貴大同	郁離子	劉基
	梅翁宗因発句集(1句)	西山宗因	唐詩絶句誤字	升庵詩話	楊慎
	三ヶ津(1句)	井原西鶴	首陽山に餓死す	史記	司馬遷
	今宮草(1句)	小西来山	天道は是非か		
	大悟物狂(1句)	上島鬼貫	璧を趙に歸さしむ		
	其便(1句)	松尾芭蕉	刎頸の交はり		
	炭俵(1句)		風蕭蕭として易水寒し		
	猿蓑(2句)	宝井其角、野沢凡兆	図窮まりて七首見る		
	玄峰集(1句)	服部嵐雪	捕蛇者説	柳河東集	柳宗元
	去来発句集(1句)	向井去来	赤壁賦	古文真宝	蘇軾
	俳諧百一集(1句)	加賀千代女	長恨歌		白居易
	蕪村句集(2句)	与謝蕪村	梅花	菅家後集	菅原道真
	七番日記(1句)	小林一茶	題野古島僧房壁	蕉堅藁	絶海中津
	おらが春(1句)		題自画	漱石全集	夏目漱石
二月つごもりごろに		川中島	日本外史	頼山陽	
鳥の空音	枕草子	清少納言			
宮に初めて参りたるころ					
父の離京					
うつろひたる菊	蜻蛉日記	藤原道綱母			
鷹					
土御門邸の秋					
水鳥の足	紫式部日記	紫式部			
同僚女房評					
薫る香に	和泉式部日記	和泉式部			
鎌倉への出立	十六夜日記	阿仏尼			
須磨					
明石の姫君入内					
紫の上の苦惱	源氏物語	紫式部			
紫の上の死					
浮舟					
継母の策謀	住吉物語				
貫之と躬恒					
道真と時平	大鏡				
村上天皇と安子					
最後の除目					
兼通と兼家	栄花物語				
承久の乱	増鏡				
清少納言と紫式部	無名草子				
文					
本歌取り	近代秀歌	藤原定家			
俊成自讃歌のこと	無名抄	鴨長明			
独り雨聞く秋の夜すがら	正徹物語	正徹			
もののあはれを知る	石上私淑言	本居宣長			
行く春を	去来抄	向井去来			
岩鼻や					
高梧掃俗	三冊子	服部土芳			
秘すれば花	風姿花伝	世阿弥			
師の説になつまざること	玉勝間	本居宣長			
花	花月草紙	松平定信			
世界の借家大将	日本永代蔵	井原西鶴			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
古文小計		(74)	漢文小計		(64)

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 明治345・346】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
博雅の三位と鬼の笛	十訓抄	六波羅二上臈左衛門入道	漱石枕流	世説新語	劉義慶
大江山			推敲	唐詩紀事	計有功
袴垂、保昌に会ふこと	宇治拾遺物語		塞翁馬	淮南子	劉安
帝の求婚	竹取物語		震畏四知	蒙求	李瀚
かぐや姫の昇天			杞憂	列子	列禦寇
世に語り伝ふること			孟母斯機	列女伝	劉向
これも仁和寺の法師			管鮑之交		
雪のおもしろう降りたりし朝	徒然草	兼好	背水之陣	十八史略	曾先之
あだし野の露消ゆるときなく			赤壁之戰		
折節の移り変はるこそ			竹里館		王維
世に従はん人は			涼州詞		王翰
ゆく河の流れ			望廬山瀑布		李白
養和の飢饉	方丈記	鴨長明	登岳陽樓		杜甫
日野山の閑居			香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁		白居易
初冠			春夜		蘇軾
狩りの使ひ	伊勢物語		遊山西村		陸游
小野の雪			鴻門之会	史記	司馬遷
つひに行く道			四面楚歌		
姨捨山の月	大和物語		題烏江亭		杜牧
和歌	万葉集(9首)	天智天皇、額田王、但馬皇女、柿本人麻呂	烏江		李清照
		山上憶良、山部赤人、大伴家持、防人歌	五十歩百歩	孟子	孟軻
	古今和歌集(6首)	紀貫之、小野小町、遍昭、凡河内躬恒	夢為胡蝶	莊子	莊周
		小野篁、伊勢	曳尾於塗中		
	新古今和歌集(7首)	後鳥羽上皇、俊成女、宮内卿、西行	且買履	韓非子	韓非
		寂蓮、藤原良経、藤原定家	慈恵亡国		
	後拾遺和歌集(3首)	曾禰好忠、能因、和泉式部	不死之薬	戦国策	劉向
	金葉和歌集(1首)	源俊頼	愚公移山	列子	列禦寇
	建礼門院右京大夫集(1首)	建礼門院右京大夫	漁父辞	楚辞	屈原
	金槐和歌集(1首)	源実朝	春夜宴桃李園序		李白
風雅和歌集(1首)	京極為兼	師説	古文真宝	韓愈	
はちすの露(1首)	良寛	醉翁亭記		欧陽脩	
桂園一枝(1首)	香川景樹	桃夭			
古今和歌集仮名序	古今和歌集	紀貫之	飲酒		陶潜
梁塵秘抄(3首)	梁塵秘抄	後白河法皇	勅勒歌		斛律金
閑吟集(3首)	閑吟集		子夜呉歌		李白
俳諧(20句)		松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶	贈衛八処士		杜甫
俳論	去来抄	向井去来	長恨歌		白居易
光源氏誕生	源氏物語	紫式部	死友		千宝
小柴垣のもと			離魂記	太平広記	陳玄祐
四季の美意識	王朝文学の楽しみ	尾崎左永子	枕中記	文苑英華	沈既濟
春はあけぼの			瀧池之会		
木の花は	枕草子	清少納言	刎頸之交	史記	司馬遷
中納言参り給うひて			風蕭蕭兮易水		
雪のいと高きう降りたるを			因窮而七首見		
九月ばかり			漂母進食		

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 明治345・346】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
忠度の都落ち	平家物語		俛出袴下	史記	司馬遷
先帝身投げ			性善	孟子	
門出	更級日記	菅原孝標女	性悪	荀子	荀況
源氏物語を読む			大道廢、有仁義		
今や夢昔や夢	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	自勝者強	老子	老聃
雲林院の菩提講	大鏡		小国寡民		
花山天皇の退位			恒公読書於堂上	莊子	莊周
『栄花物語』—花山天皇の退位—	栄花物語		兼愛	墨子	墨翟
南院の競射	大鏡		侵官之害	韓非子	韓非
うつくしきもの			百戦不殆	孫子	孫武
かたはらいたきもの			蘇武持漢節	資治通鑑	司馬光
二月つごもり頃に	枕草子	清少納言	三顧之礼	三国志	陳寿
宮に初めて参りたる頃			読家書	菅家後集	菅原道真
御前にて人々とも			富士山	新編覆醬集	石川丈山
町の小路の女	蜻蛉日記	藤原道綱母	無題	漱石全集	夏目漱石
泔杯の水			惜陰	言志録	佐藤坦
夢よりもはかなき世の中を	和泉式部日記	和泉式部	能登殿最期	日本外史	頼山陽
影こそ出づれ					
若宮誕生	紫式部日記	紫式部			
和泉式部・清少納言					
沓冠折句の歌	俊頼髓脳	源俊頼			
おもて歌のこと	無名抄	鴨長明			
心と詞	毎月抄	藤原定家			
不易流行	三冊子	服部土芳			
車争ひ					
心づくしの秋風					
野分の垣間見	源氏物語	紫式部			
三日がほど					
紫の上の死					
虫めづる姫君	堤中納言物語				
六歳の夏の頃	折たく柴の記	新井白石			
フルヘツヘンド	蘭学事始	杉田玄白			
道真の左遷					
三船の才	大鏡				
肝試し					
鶯宿梅					
新島守	増鏡				
紫式部	無名草子				
もののあはれの論	源氏物語玉の小櫛	本居宣長			
師の説になづまざること	玉勝間				
秘する花を知ること	風姿花伝	世阿弥			
虚実皮膜の間	難波みやげ	三木貞成			
倭建命の望郷の歌	古事記				
鼠の文使ひ	世間胸算用	井原西鶴			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
古文小計		(78)	漢文小計		(62)



「別紙 2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 明治347】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
安養の尼の小袖	古今著聞集	橘成季	矛盾	韓非子	韓非
児の飴食ひたること	沙石集	無住	推敲	唐詩紀事	計有功
大江山	十訓抄	六波羅二藤左衛門入道	画竜点睛	歴代名画記	張彦遠
帝の求婚	竹取物語		螢雪之功	蒙求	李瀚
かぐや姫の昇天			両頭之蛇	新序	劉向
世に語り伝ふること			朝三暮四	列子	列禦寇
これも仁和寺の法師	徒然草	兼好	太公望	十八史略	曾先之
雪のおもしろう降りたりし朝			藺相如		
城陸奥守泰盛は			燕雀安知鴻鵠之志哉		
ゆく河の流れ	方丈記	鴨長明	背水之陣		
養和の飢饉			赤壁之戦		
通い路の関守			創業守成		
梓弓	伊勢物語		竹里館		王維
小野の雪			涼州詞		王翰
百人一首(20首)	百人一首	天智天皇、小野小町、僧正遍昭、凡河内躬恒、紀友則、紀貫之、平兼盛、曾禰好忠、和泉式部、左京大夫道雅、周防内侍、大納言経信、源兼昌、待賢門院堀河、後徳大寺左大臣、皇太后宮大夫俊成、寂蓮法師、参議雅経、権中納言定家、順徳院	望廬山瀑布		李白
			舟中読元九詩		白居易
			旅夜書懐		杜甫
			黄鶴樓		崔顥
			春夜		蘇軾
春はあけぼの			遊山西村		陸游
うつくしきもの			五柳先生伝	陶淵明集	陶潜
はしたなきもの	枕草子	清少納言	雑説	唐宋八家文読本	韓愈
雪のいと高う降りたるを			送薛存義序	古文真宝	柳宗元
九月ばかり			五十歩百歩	孟子	
『枕草子』の味わい	枕草子	田中澄江	夢為胡蝶		莊周
忠度の都落ち	平家物語		且買履		韓非子
先帝身投げ			溷鳥舞不下		列子
今や夢昔や夢	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	不顧後患		說苑
門出	更級日記	菅原孝標の女	王昭君		西京雜記
源氏物語を読む			中石没矢		蒙求
俳諧(16句)		松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶	令七步中作詩		世説新語
俳論	去来抄	向井去来	青眼白眼		蒙求
博雅の三位と鬼の笛	十訓抄		死友		搜神記
秦兼久の悪口	宇治拾遺物語		人面桃花		本事詩
花山天皇の退位			酒虫		聊齋志異
三船の才			鴻門之会		
肝試し	大鏡		四面楚歌		史記
南院の競射			題烏江亭		
町の小路の女	蜻蛉日記	藤原道綱の母	烏江		杜牧
夢よりもはかなき世の中を	和泉式部日記	和泉式部	桃夭		李清照
秋のけはひ	紫式部日記	紫式部	野田黄雀行		曹植
万葉集(5首)	万葉集(5首)	雄略天皇、但馬皇女、柿本人麻呂、山上憶良	勅勒歌		斛律金

「別紙 2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 明治347】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
和歌(10首)	古今和歌集(2首)	よみ人知らず、壬生忠岑	子夜吳歌		李白
	拾遺和歌集(1首)	菅原道真	兵車行		杜甫
	後拾遺和歌集(2首)	中宮定子、能因	性善	孟子	孟軻
	金葉和歌集(1首)	源俊頼	性悪	荀子	荀況
	新古今和歌集(1首)	西行	大道麩、有仁義		
	金槐和歌集(1首)	源実朝	自勝者強	老子	老聃
	増鏡(1首)	後鳥羽上皇	小国寡民		
	風雅和歌集(1首)	京極為兼	魚之樂	莊子	莊周
古今和歌集 仮名序	古今和歌集	紀貫之	侵官之害	韓非子	韓非
歌謡(10首)	催馬楽(1首)		聞旅雁	菅原後集	菅原道真
	梁塵秘抄(4首)	後白河上皇	富士山	新編覆轡集	石川丈山
	閑吟集(3首)		徂徠貧居	先哲叢談	原念斎
	隆達小歌集(1首)	高三隆達	惜陰	言志録	佐藤坦
	松の葉(1首)	秀松軒			
光源氏誕生					
小柴垣のもと	源氏物語	紫式部			
物の怪の出現					
野分の垣間見					
文	無名草子				
徒然草—静かに思へば—	徒然草	兼好			
おもて歌のこと	無名抄	鴨長明			
天性の名人	耳塵集	金子吉左衛門			
田舎に雅言の残れること	玉勝間	本居宣長			
須佐之男命の大蛇退治	古事記				
鼠の文使ひ	世間胸算用	井原西鶴			
古文小計		(52)	漢文小計		(55)

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 筑摩348・349】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
袴垂、保昌にあふこと	宇治拾遺物語		晏子之御	史記 管晏列伝	司馬遷
獵師、仏を射ること			病人膏肓	春秋左氏伝	左丘明
初冠			先從陳始	戦国策	劉向(撰)
月やあらぬ			曳尾於塗中	莊子	莊子
行く螢	伊勢物語		桃花源記	陶淵明集	陶淵明
狩りの使ひ			黔之驢	柳河東集	柳宗元
渚の院			愛蓮説	古文真宝・後集	周敦頤
小野の雪			鹿柴		王維
つひにゆく			登鶴鶴樓		王之渙
姨捨	大和物語		望廬山瀑布		李白
春は、あけぼの			秋風引	劉夢得文集	劉禹錫
野分のまたの日こそ			楓橋夜泊		張繼
五月ばかりなどに			山行		杜牧
世の中になほいと心憂きものは	枕草子	清少納言	過故人莊		孟浩然
すさまじきもの			登高		杜甫
近うて遠きもの・遠くて近きもの			咸陽城東樓		許渾
降るものは			聞旅雁		菅原道真
中納言参りたまひて			即事		新井白石
二月つごもりごろに			無題		夏目漱石
火鼠の皮衣	竹取物語		天道是邪、非邪		
かぐや姫の昇天			鴻門之会	史記	司馬遷
光源氏の誕生			四面楚歌		
飽かぬ別れ	源氏物語	紫式部	売鬼	搜神記	干宝
若紫の君			千日酒		
継母との別れ	更級日記	菅原孝標女	白亀	搜神後記	
源氏の五十余巻			漁父辞	楚辞	屈原
嘆きつつ	蜻蛉日記	藤原道綱母	春夜宴桃李園序	古文真宝	李白
道綱鷹を放つ			師説	唐宋八家文読本	韓愈
大事を思ひ立たむ人は			論語(学問と行動)(8章)		
世に語り伝ふること	徒然草	兼好	論語(人間への信頼)(4章)	論語	
これも仁和寺の法師			人無有不善	孟子	
九月二十日のころ			四端		
能をつかむとする人			性悪	荀子	
久しく隔たりて会ひたる人の			不死之薬	韓非子	韓非
養和の飢饉	方丈記	鴨長明	李広成蹊	蒙求	李瀚
仮の庵			愚公移山	列子	
雲林院にて			詩経大序	詩経	卜商
花山院の出家	大鏡		論文	文選	曹丕
公任、三船の誉れ			捕蛇者説	唐宋八家文読本	柳宗元
南の院の競射			学兼知行	語孟字義	伊藤仁斎
忠度の都落ち	平家物語		桃夭	詩経	
能登殿の最期			秋風辞		武帝
万葉の歌(11首)	万葉集	額田王、柿本人麻呂、山上憶良、大伴旅人、山部赤人、藤原広嗣、大伴家持、東歌、防人歌	飲酒	陶淵明集	陶淵明
			送別		王維
			漁翁		柳宗元
			石壕吏		杜甫
			長恨歌	白氏文集	白居易
王朝の歌(16首)	古今和歌集(11首)	紀貫之、紀友則、素性、坂上是則、在原業平、伊勢、小野小町、小野篁、藤原敏行、上野岑雄、在原行平	良賈深藏若虚		司馬遷
	後拾遺和歌集(3首)	能因、和泉式部	以孫子為師	史記	
	梁塵秘抄(2首)	後白河法皇			

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 筑摩348・349】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
中世の歌(10首)	新古今和歌集(8首)	後鳥羽院、藤原俊成、式子内親王、寂蓮、西行、藤原定家、藤原俊成女、藤原良経	圮上之老父	史記	司馬遷
	金塊和歌集(1首)	源実朝	国士無双		
	閑吟集(1首)		信玄何在	日本外史	頼山陽
近世の句(12首)		松尾芭蕉	離魂記	太平広記	陳玄祐
		与謝蕪村	人面桃花	本事詩	孟榮
		小林一茶	柳子厚墓誌銘	韓昌黎集	韓愈
千里に旅立ちて	野ざらし紀行	松尾芭蕉	与微之書	白居易	白居易
愛児さと	おらが春	小林一茶	無之用	老子	老聃
刑部卿敦兼の北の方	古今著聞集	橋成季	小国寡民		
馬盗人	今昔物語集		渾沌	莊子	莊周
大進生昌が家に	枕草子	清少納言	胡蝶之夢		
上にさぶらふ御猫は			守業	韓非子	韓非
車争い			兼愛	墨子	墨翟
心づくしの秋	源氏物語	紫式部			
母子の別離					
暁の雪					
萩のうは露					
霧の中のかいま見					
髪の香					
土御門殿の秋	紫式部日記	紫式部			
和泉式部と清少納言					
夢よりもはかなき世の中を	和泉式部日記	和泉式部			
なべて世の	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫			
関の藤川	十六夜日記	阿仏			
やまとうたは	古今和歌集仮名序	紀貫之			
六歌仙					
深草の里	無名抄	鴨長明			
心と詞	毎月抄	藤原定家			
紫式部	無名草紙				
待つ恋	正徹物語	正徹			
二十四、五	風姿花伝	世阿弥			
菅公配流					
肝試し	大鏡				
道長、栄華への第一歩					
後鳥羽院	増鏡				
行く春を					
岩鼻や	去来抄				
北寿老仙をいたむ	いそのはな	与謝蕪村			
奈良団扇	鶉衣	横井也有			
大晦日はあはぬ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
不易流行	三冊子	服部土芳			
虚実皮膜の間	難波土産	穂積以貞			
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長			
倭建命	古事記				
水江の浦島子	万葉集	高橋虫麻呂			
古文の表現	古事記、蜻蛉日記、枕草子、源氏物語、今昔物語集、平家物語、西鶴諸国ばなし、野ざらし紀行、雨月物語、玉勝間	藤原道綱母、清少納言、紫式部、井原西鶴、松尾芭蕉			
古文小計			(87)		
			漢文小計		
			(62)		

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 第一350・351】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
小式部内侍が大江山の歌の事	古今著聞集	橘成季	推敲	唐詩紀事	計有功	
歌ゆゑに命を失ふ事	沙石集	無住道暁	吳越同舟	孫子	孫武	
袴垂、保昌に合ふ事	宇治拾遺物語		嬰逆鱗	韓非子	韓非	
よろづのことは、月見るにこそ	徒然草	兼好法師	知音	呂氏春秋	呂不韋	
久しく隔たりて会ひたる人の			鼓腹擊壤	十八史略	曾先之	
世に語り伝ふること			莫敢飾詐			
あだし野の露消ゆるときなく			戰勝於朝廷	戦国策	劉向	
飛鳥川の淵瀬	方丈記	鴨長明	雑説	昌黎先生文集	韓愈	
ゆく川の流れ			黔之驢	柳先生文集	柳宗元	
安元の大火	伊勢物語		売油翁	欧陽文忠公文集	欧陽脩	
初冠			鴻門之会	史記	司馬遷	
通ひ路の関守			四面楚歌			
小野の雪			独坐敬亭山			李白
つひにゆく道	大和物語		秋風引		劉禹錫	
苔の衣			九月九日憶山東兄弟		王維	
姨捨			礪中作		岑参	
帝の求婚			除夜寄弟妹		白居易	
かぐや姫の昇天	竹取物語		江村	杜甫		
春は、あけぼの	枕草子	清少納言	不出門		菅原道真	
木の花は			冬夜読書		菅茶山	
すさまじきもの			送夏目漱石之伊予		正岡子規	
加茂へ参る道に			新死鬼	幽明録	劉義慶	
村上への先帝の御時に	源氏物語	紫式部	枕中記	枕中記	沈既濟	
雪のいと高う降りたるを			修養(4編)	論語		
光る君誕生			学問(4編)	孟子		
若紫			何必日利	孟子		
雲林院の菩提講	大鏡		性善			
花山天皇の出家			大道廢有仁義			
道長の豪胆			小国寡民	老子	老聃	
道長と伊周一弓争ひ一			天下莫柔弱於水			
門出	更級日記	菅原孝標女	渾沌	莊子	莊周	
源氏の五十余巻			曳尾於塗中			
大納言殿の姫君			侵官之害	韓非子	韓非	
鏡のかけ			非愛也			
資盛との思ひ出	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	医薬談笑	東坡志林	蘇軾	
悲報到来	十六夜日記	阿仏尼	入蜀記	入蜀記	陸游	
駿河路			賢母辞拾遺	南村綴耕録	陶宗儀	
十六夜の月			不顧後患	説苑	劉向	
忠度の都落ち			不若人有其室	新序	劉向	
能登殿の最期	義経記		不死之道	列子	列禦寇	
忠信、吉野山の合戦の事			唇亡齒寒	戦国策	劉向	
如意の渡りにて義経を弁慶打ち奉る事			趙太后			

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 第一350・351】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
万葉集(10首)	万葉集	額田王、大海人皇子、柿本人麻呂、山上憶良、山部赤人、大伴家持、東歌、防人歌	孫臏(孫子吳起列伝)	史記	司馬遷	
古今和歌集(仮名序+7首)	古今和歌集	紀貫之、凡河内躬恒、僧正遍昭、壬生忠岑、清原深養父、小野小町、よみ人知らず	信陵君(魏公子列伝)			
新古今和歌集(6首)	新古今和歌集	藤原定家、後鳥羽院、藤原家隆、式子内親王、藤原俊成女、西行法師	張儀(張儀列伝)			
春夏秋冬(16句)	貞門・談林(4句)	松永貞徳、北村季吟、西山宗因、井原西鶴	荊軻(刺客列伝)			
	蕉門(6句)	松尾芭蕉、向井去来、服部嵐雪、森川許六	行行重行行		陶淵明集	
	芭蕉以降(6句)	千代女、炭太祇、与謝蕪村、上田秋成、高井几董、小林一茶	責子			
歡実、路頭の病者を憐れむ事	発心集	鴨長明	石壕吏		杜甫	
やさし蔵人	今物語	藤原信実	長恨歌		白居易	
賢人右府	十訓抄		売柑者言	誠意伯文集	劉基	
野分のまた日こそ	枕草子	清少納言	唐荆川文集		唐順之	
ふと心劣りとかするものは			寄花石			
宮に初めて参りたるころ			道平、人皆由道	呻吟語		呂坤
二月つごもりごろに			為学	白鶴堂文祿		彭端淑
御方々、君たち	源氏物語	紫式部	黄生借書説	小倉山房詩文集	袁枚	
須磨の秋			夢語之巧合	右台仙館筆記		俞樾
住吉参詣			張飛、大いに長坂橋を鬧がす	三国志演義		羅貫中
明石の姫君の入内	堤中納言物語		諸葛孔明の智略			
紫の上の死						
薫と宇治の姫君	俊頼髓脳	源俊頼				
このついで						
歌のよしあし	無名抄	鴨長明				
沓冠折句の歌						
関路の落葉	無名草子					
深草の里						
清少納言と紫式部	藤篋冊子	上田秋成				
文						
秋山の記	おらが春	小林一茶				
添へ乳						
菅原道真の左遷	大鏡					
道長と女院栓子						
三舟の才						
佐理の大弐						
中納言争い						
後鳥羽院	増鏡					
時頼と時宗						
うつろひたる菊	蜻蛉日記	藤原道綱母				
泔杯の水						
若宮誕生	紫式部日記	紫式部				
日本紀の御局						

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 第一350・351】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
夢よりもはかなき世の中	和泉式部日記	和泉式部			
手枕の袖					
父大納言の苦惱	とりかへばや物語				
偽りの別れ	しのびね物語				
風姿花伝	風姿花伝	世阿弥			
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長			
兼好法師が詞のあげつらひ					
行く春を					
下京や	去来集	向井去来			
発句論					
大晦日は合はぬ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
古文小計		(91)	漢文小計		(58)

「別紙 2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 第一352】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
小式部内侍が大江山の歌の事	古今著聞集	橘成季	推敲	唐詩紀事	計有功(撰)
歌ゆゑに命を失ふこと	沙石集	無住道暁	吳越同舟	孫子	孫武
袴垂、保昌に合ふ事	宇治拾遺物語		嬰逆鱗	韓非子	韓非
よろづのことは、月見るにこそ			知音	呂氏春秋	呂不韋(撰)
久しく隔たりて会ひたる人の			鼓腹擊壤	十八史略	曾先之(撰)
世に語り伝ふること	徒然草	兼好法師	莫敢飾詐		
あだし野の露消ゆるときなく			戰勝於朝廷	戰国策	劉向(編)
飛鳥川の淵瀬			雜説	昌黎先生文集	韓愈
ゆく川の流れ	方丈記	鴨長明	黔之驢	柳先生文集	柳宗元
安元の大火			売油翁	歐陽文忠公文集	歐陽脩
初冠			鴻門之会	史記	司馬遷
通ひ路の関守	伊勢物語		四面楚歌		
小野の雪			独坐敬亭山		李白
つひにゆく道			秋風引		劉禹錫
苔の衣	大和物語		九月九日憶山東兄弟		王維
滅捨			磧中作		岑參
帝の求婚	竹取物語		除夜寄弟妹		白居易
かくや姫の昇天			江村		杜甫
春は、あけぼの			不出門		菅原道真
すさまじきもの			冬夜読書		管茶山
賀茂へ参る道に	枕草子	清少納言	送夏目漱石之伊予		正岡子規
村上の先帝の御時に			新死鬼	幽明録	劉義慶(撰)
木の花は			枕中記	枕中記	沈既濟(撰)
雪のいと高う降りたるを			修養(4編)		
光る君誕生	源氏物語	紫式部	學問(4編)	論語	
若菜			何必日利	孟子	
雲林院の菩提講			性善		
花山天皇の出家	大鏡		大道廢有仁義		
道長の豪胆			小国寡民	老子	老聃
道長と伊周一弓争ひ一			天下莫柔弱於水		
門出			渾沌	莊子	莊周
源氏の五十余巻	更級日記	菅原孝標女	曳尾於塗中		
大納言殿の姫君			侵官之害	韓非子	韓非
鏡のかけ			非愛也		
資盛との思ひ出	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	医藥談笑	東坡志林	蘇軾
悲報到来			入蜀記	入蜀記	陸游
駿河路	十六夜日記	阿仏尼	賢母辞拾遺	南村綴耕録	陶宗儀
十六夜の月			不願後患	説苑	劉向
忠度の都落ち	平家物語		不若人有其宝	新序	劉向
能登殿の最期			不死之道	列子	列禦寇
忠信、吉野山の合戦の事	義経記		唇亡齒寒	戰国策	劉向
如意の渡りにて義経を弁慶打ち奉る事			趙太后		
万葉集(10首)	万葉集	額田王、大海人皇子、柿本人麻呂、山上憶良、山部赤人、大伴家持、東歌、防人歌	孫臏(孫子呉起列伝)		
古今和歌集(仮名序+7首)	古今和歌集	紀貫之、凡河内躬恒、僧正遍昭、壬生忠岑、清原深養父、小野小町、よみ人知らず	信陵君(魏公子列伝)	史記	司馬遷
新古今和歌集(6首)	新古今和歌集	藤原定家、後鳥羽院、藤原家隆、式子内親王、藤原俊成女、西行法師	張儀(張儀列伝)		
			荊軻(刺客列伝)		
			行行重行行		
	貞門・談林(4句)	松永貞徳、北村季吟、西山宗因、井原西鶴	責子		陶淵明
			石壕吏		杜甫
春夏秋冬(16句)	蕉門(6句)	松尾芭蕉、向井去来、服部嵐雪、森川許六	長恨歌		白居易
			売柑者言	誠意伯文集	劉基
	芭蕉以降(6句)	内藤文章、野沢凡兆	奇花石	唐荆川文集	唐順之
		千代女、炭太祇、与謝蕪村、上田秋成、高井几童、小林一茶	道平、人皆由道		呂坤
				呻吟語	



「別紙 2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 第一352】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
叡実、路頭の病者を憐れむ事	発心集	鴨長明	為学	白鶴堂文祿	彭端淑
やさし蔵入	今物語		黄生借書説	小倉山房詩文集	袁枚
賢人右府	十訓抄		夢語之巧合	右台仙館筆記	俞樾
野分のまたの日こそ			張飛、大いに長坂橋を鬧がす	三国志演義	羅貫中
ふと心劣りとかするものは			諸葛孔明の智略		
宮に初めて参りたるころ	枕草子	清少納言			
二月つごもりごろに					
御方々、君たち					
須磨の秋					
住吉参詣					
明石の姫君の入内	源氏物語	紫式部			
紫の上の死					
薫と宇治の姫君					
このついで	堤中納言物語				
歌のよしあし	俊頼髓脳	源俊頼			
春冠折句の歌					
関路の落葉	無名抄	鴨長明			
深草の里					
清少納言と紫式部	無名草子				
文					
秋山の記	藤妻冊子	上田秋成			
添へ乳	おらが春	小林一茶			
菅原道真の左遷					
道長と女院詮子					
三舟の才	大鏡				
佐理の大式					
中納言争ひ					
後鳥羽院	増鏡				
時頼と時宗					
うつろひたる菊	蜻蛉日記	藤原道綱母			
紺杯の水					
若宮誕生	紫式部日記	紫式部			
日本紀の御局					
夢よりもはかなき世の中	和泉式部日記	和泉式部			
手枕の袖					
父大納言の苦惱	とりかへばや物語				
偽りの別れ	しのびね物語				
風姿花伝	風姿花伝	世阿弥			
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長			
兼好法師が詞のあげつらひ					
行く春を					
下京や	去来集	向井去来			
発句論					
大晦日は合はぬ算用	西鶴諸国ばなし	井原西鶴			
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成			
古文小計		(91)	漢文小計		(58)

「別紙2-1」 【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 第一353】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名			
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等	
平中が事	古本説話集		助長	孟子		
文字一つの返し	十訓抄		嬰逆鱗	韓非子	韓非	
小式部内侍が大江山の歌の事	古今著聞集	橘成季	画竜点睛	歴代名画記	張彦遠	
火鼠の皮衣	竹取物語		推敲	唐詩紀事	計有功	
かぐや姫の昇天			朝三暮四	列子	列禦寇	
初冠	伊勢物語		鼓腹撃壤	十八史略	曾先之	
通ひ路の関守			褒姒大笑			
小野の雪			背水之陣			
公世の二位のせうとに	徒然草	兼好法師	鹿柴		王維	
奥山に、猫またというものありて				絶句		杜甫
相模守時頼の母は				峨眉山月歌		李白
よるづのことは頼むべからず				春夜		蘇軾
ゆく川の流れ	方丈記	鴨長明	臨洞庭		孟浩然	
安元の大火			遊山西村		陸游	
万葉集(10首)	万葉集	額田王、大海人皇子、柿本人麻呂、山上憶良、山部赤人、大伴家持、東歌、防人歌	不出門		菅原道真	
古今和歌集(仮名序+7首)	古今和歌集	紀貫之、凡河内躬恒、僧正遍昭、壬生忠岑、清原深養父、よみ人知らず、小野小町	冬夜読書		菅茶山	
新古今和歌集(6首)	新古今和歌集	藤原定家、後鳥羽院、藤原家隆、式子内親王、藤原俊成女、西行法師	送夏目漱石之伊予		正岡子規	
春は、あけぼの	枕草子	清少納言	新死鬼	幽明録	劉義慶	
うつくしきもの				枕中記	文苑英華	沈既濟
ずさまじきもの				鴻門之会	史記	司馬遷
中納言参り給ひて				四面楚歌	論語	
雪のいと高う降りたるを			論語(6章)	孟子		
門出	更級日記	菅原孝標女	仁人心也			
源氏の五十余巻			民父母			
大原まうで	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫	柔弱	老子	老聃	
忠度の都落ち	平家物語		百谷王			
能登殿の最期			鴟得腐鼠	莊子	莊周	
如意の渡りにて義経を弁慶打ち奉る事	義経記		胡蝶之夢			
浦島太郎	御伽草子		刻削之道	韓非子	韓非	
亀を買ひて放つ事	宇治拾遺物語		法者王之本也			
望夫石	唐物語	藤原通憲	不顧後患	說苑	劉向	
苔の衣	大和物語		圍人の罪			
姨捨			楚惠王吞蛭	新序		
うつほの母と子	宇津保物語		不若人有其宝	淮南子	劉安	
このついで	堤中納言物語		宋人有嫁子者			
春夏秋冬(16句)	貞門・談林(4句)	松永貞徳、北村季吟、西山宗因、井原西鶴	水魚之交	十八史略	曾先之	
	蕉門(6句)	松尾芭蕉、向井去来、服部嵐雪、森川許六、内藤文草、野沢凡兆	赤壁之戦			
	芭蕉以降(6句)	千代女、炭太祇、与謝蕪村、上田秋成、高井几董、小林一茶	死諸葛走生仲達			
			子衿			
			七步詩		曹植	
			雜詩		陶潜	
			遊子吟		孟郊	
			壳炭翁		白居易	

「別紙 2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 第一三五三】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
延喜の帝	大鏡		孫臏	史記	司馬遷
弓争ひ			馮驩		
三舟の才			信陵君		
道長の豪胆			猫相乳		
光る君誕生	源氏物語	紫式部	臨江之麋	昌黎先生文集	韓愈
若紫				柳先生文集	柳宗元
明石の君と姫君				歐陽文忠公文集	歐陽脩
泔坏の水	蜻蛉日記	藤原道綱母			
日本紀の御局	紫式部日記	紫式部			
夢よりもはかなき世の中	和泉式部日記	和泉式部			
清少納言	無名草子				
紫式部					
深草の里	無名抄	鴨長明			
兼好法師が詞のあげつらひ	玉勝間	本居宣長			
古文小計		(50)	漢文小計		(49)

「別紙2-1」 【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 桐原354・355】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
歌詠みて罪を許さること	宇治拾遺物語		画堂点睛	歴代名画記	張彦遠
衣のたて	古今著聞集	橘成季	漱石枕流	世説新語	劉義慶
虎の罾取りたること	宇治拾遺物語		病人膏肓	春秋左氏伝	孔子
あだし野の露消ゆるときなく			梁上君子	後漢書	汜暉
家居のつきつきしく			先從隗始	十八史略	曾先之
これも仁和寺の法師	徒然草	兼好法師	杞憂	列子	列禦寇
ある者、子を法師になして			赤壁の戦い	三國志	陳寿
主ある家には			背水の陣	史記	司馬遷
行く川の流れ	方丈記	鴨長明	秋風引		劉禹錫
安元の大火・治承つじ風			雑詩		王維
天の羽衣	竹取物語		望廬山瀑布		李白
初冠			芙蓉樓送辛漸		王昌齡
月やあらぬ			臨洞庭		孟浩然
行く螢	伊勢物語		登高		杜甫
狩りの使ひ			桃夭		
つひに行く道			行行重行行		無名氏
姨捨	大和物語		七步詩		曹植
門出	更級日記	菅原孝標女	勅勒歌		無名氏
物語			不出門		菅原道真
春はあけぼの			題不識庵擊機山図		頼山陽
うつくしきもの			思君		中野道遥
木の花は	枕草子	清少納言	火輪車中之作		成島柳北
中納言参りたまひて			春夜宴桃李園序	古文真宝	李白
雪のいと高う降りたるを			桃花源記	陶淵明集	陶潜
雲林院の菩提講			師説	唐宋八家文読本	韓愈
花山院の出家	大鏡		鴻門之会		
三船の才			四面楚歌	史記	司馬遷
道長と伊周の競射			論語(7章)	論語	
宇治川の先陣	平家物語		四端	孟子	
先帝入水			性善		
平家物語	無常ということ	小林秀雄	学不可以已		
光源氏の誕生			星隊木鳴	荀子	荀况
光源氏と藤壺	源氏物語	紫式部	性悪		
若紫との出会い			人主者以刑徳制臣	韓非子	韓非
継母との別れ	更級日記	菅原孝標女	教学相長也	礼記	
旧都の月	平家物語		聖人治天下	孟子	
	古今和歌集	凡河内躬恒	不顧後患	説苑	劉向
	新古今和歌集	藤原秀能 藤原雅経	孔明臥竜	蒙求	李瀚
	山家集	西行法師	三横	世説新語	劉義慶
	風雅和歌集	京極為兼	江南橋為江北枳	説苑	劉向
	後拾遺和歌集	能因法師	荆軻	十八史略	曾先之
	金葉和歌集	源俊頼	子路	史記	司馬遷
	古今和歌集	壬生忠岑	月下独酌		李白
	後拾遺和歌集	和泉式部	兵車行		杜甫
	詞花和歌集	源重之	長恨歌		白居易
	新古今和歌集	曾禰好忠 小侍従	漁夫辞	楚辞	屈原
	新勅撰和歌集	藤原定家	捕蛇者説	唐宋八家文読本	柳宗元
	千載和歌集	詠み人知らず	岳陽樓記	古文真宝	范仲淹
	新古今和歌集	紫式部 藤原清輔	売柑者言	誠意伯文集	劉基
	続後撰和歌集	源実朝	人面桃花	本事詩	孟啓
	増鏡	後鳥羽上皇	種梨	卿齋志異	蒲松齡
	後撰和歌集	藤原兼輔	三夢記	説郭	白行簡
発句(16句)		松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶	廉頗と藺相如	史記(廉頗藺相如列伝)	司馬遷
連句(12句)	猿蓑	松尾芭蕉・向井去来・野沢凡兆	蘇武と李陵	資治通鑑	司馬光

「別紙2-1」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 a 古文の文章教材の作品名と作者名 b 漢文の文章教材の作品名と作者名 発行者 桐原354・355】 (古典B)

古文の文章教材の作品名と作者名			漢文の文章教材の作品名と作者名		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
世界の借屋大将	日本永代蔵	井原西鶴	無用之用	老子	老聃
浅茅が宿	雨月物語	上田秋成	大道庵有仁義		
刑部卿教兼と北の方	古今著聞集		胡蝶之夢		
秦兼久の悪口	宇治拾遺物語		渾沌	莊子	莊周
勘解由小路の地蔵	沙石集	無住	言、大而無用		
すさまじきもの			侵官之害	韓非子	韓非
野分のまたの目こそ	枕草子	清少納言	処知則難		
二月のつごもりごろに			非攻	墨子	墨翟
大納言殿参りたまひて			性非学者之所急	弁道	荻生徂徠
嘆きつつひとり寝る夜	蜻蛉日記	藤原道綱母			
鷹を放つ					
夢よりもはかなき世の中を 有明の月に	和泉式部日記	和泉式部			
水鳥に思いよそえて	紫式部日記	紫式部			
日本紀の御局					
かかる夢見ぬ人やいひけむ 今や夢音や夢やと	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫			
藤壺の里下がりに					
葵上と物の怪	源氏物語	紫式部			
柏木と女三宮					
紫上の死	源氏物語	紫式部			
匂宮と浮舟					
虫めづる姫君	堤中納言物語				
梅里の一夜	松浦宮物語				
やまと歌は	古今和歌集仮名序	紀貫之			
和歌の効用	俊頼髓脳	源俊頼			
俊成自賛歌のこと	無名抄	鴨長明			
行く春を	去来抄	向井去来			
岩鼻や					
師の風雅	三冊子	土芳			
菅原道真の左遷	大鏡				
道長の豪胆					
倭建命	古事記				
小野小町	無名草子				
秘する花を知ること	風姿花伝	世阿弥			
虚実皮膜の論	難波土産	穂積以貴			
師の説になづまざること	玉勝間	本居宣長			
もののははれ	源氏物語玉の小櫛				
風雅の道	柴門の辞	芭蕉			
娘 さと	おらが春	小林一茶			
堪忍	雲萍雑誌				
徳兵衛お初道行	曾根崎心中	近松門左衛門			
近世和歌(5首)		賀茂真淵、良寛、香川景樹、橘曙覧、大隈言道			
狂歌(3首)		四方赤良 朱楽菅江 宿屋飯盛			
古文小計			漢文小計		
(85)			(63)		

「別紙2-2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害の扱い】(古典B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
教出	309	新編 古典B 言葉の世界へ	有 (無)			
明治	316 317	精選古典B古文編 精選古典B漢文編	有 (無)			
明治	318	高等学校古典B	有 (無)			
文英堂	319	新編古典	有 (無)			
第一	322 323	高等学校 古典B 古文編 高等学校 古典B 漢文編	有 (無)			
桐原	325 326	探求古典B 古文編 探求古典B 漢文編	有 (無)			
桐原	327	古典B	(有) 無	本文	1部 2随想(一)方丈記 大火とつじ風	P34～35に、つじ風(竜巻)による被害の記録について記載がある。
東書	329	新編古典B	有 (無)			
東書	330	精選古典B 新版	有 (無)			
東書	331 332	精選古典B 古文編 精選古典B 漢文編	有 (無)			
三省堂	333 334	高等学校古典B 古文編 改訂版 高等学校古典B 漢文編 改訂版	有 (無)			
三省堂	335	精選古典B 改訂版	有 (無)			
教出	336 337	精選古典B 古文編 精選古典B 漢文編	有 (無)			
教出	338	古典B	有 (無)			
大修館	339 340	古典B 改訂版 古文編 古典B 改訂版 漢文編	有 (無)			
大修館	341	精選古典B 改訂版	有 (無)			
大修館	342	新編古典B 改訂版	(有) 無	コラム	古典の窓1『方丈記』に見られる都の災害	P44に、元暦二年の大地震について、方丈記からの抜粋がある。
数研	343 344	改訂版 古典B 古文編 改訂版 古典B 漢文編	有 (無)			
明治	345 346	新 精選古典B 古文編 新 精選古典B 漢文編	(有) 無	コラム	古文の窓①無常の理	P41に、「飢饉や大地震によって多くの人々の命が失われる悲惨な現実をつぶさに書き記した。」との記載がある。
明治	347	新 高等学校古典B	有 (無)			
筑摩	348 349	古典B 古文編 改訂版 古典B 漢文編 改訂版	有 (無)			
第一	350 351	高等学校 改訂版 古典B 古文編 高等学校 改訂版 古典B 漢文編	有 (無)			
第一	352	高等学校 改訂版 古典B	有 (無)			
第一	353	高等学校 改訂版 標準古典B	有 (無)			
桐原	354 355	新 探求古典B 古文編 新 探求古典B 漢文編	(有) 無	本文	1部2随筆 1方丈記「安元の大 火・治承のつじ風」	P30に、「大きなつじ風起りて、六条わたりまで吹けること待りき。」とあり、当時の様子が記録されている。

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(古典B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
教出	309	新編 古典B 言葉の世界へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「古典の窓」の中で、「中国の小説と日本」というテーマの文章を掲載し、中国の小説が日本の文学に与えた影響について説明している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本の漢詩文」という章を設け、菅原道真、菅茶山などの漢詩5編を掲載している。</li> <li>・漢文編の「日本の漢詩文」という章の中で、夏目漱石の漢詩を掲載している。</li> <li>・「古典の窓」というコラムを13編掲載し、教材本編に関わる情報を紹介している。</li> </ul>
明治	316 317	精選古典B古文編 精選古典B漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢文の窓」というコラムで『白氏文集』と日本文学との関係を説明している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本漢詩文」という章を設け、菅原道真などの漢詩3編と義堂周信「深耕説」など漢文2編を掲載している。</li> <li>・漢文編の「日本漢詩文」という章の中で、夏目漱石の漢詩を掲載している他、「四季の美意識」という古典に関する評論文を掲載している。</li> <li>・「古文の窓」というコラムを4編、「漢文の窓」というコラムを6編掲載し、教材本編に関わる情報を紹介している。</li> </ul>
明治	318	高等学校古典B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「古文の窓」の中では、敬語を取り上げて我が国の言語文化の特質を紹介し、コラム「漢文の窓」の中では、「十八史略」を取り上げて我が国に与えた影響を説明している。</li> <li>・漢文編後編の中で、「日本漢詩文」という章を設け、菅原道真などの漢詩2編と原念斎の荻生徂徠に関する漢文など2編を掲載している。</li> <li>・コラム「古文の窓」の中で、「古語と方言」や「日本漢詩文」をテーマとした文章を掲載している。</li> <li>・「古文の窓」というコラムを5編、「漢文の窓」というコラムを6編掲載し、教材本編に関わる情報を紹介している。</li> </ul>
文英堂	319	新編古典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「長恨歌」の参考として紫式部の「源氏物語」を紹介し、「長恨歌」が「源氏物語」に影響を与えている部分を具体的に示している。</li> <li>・漢文編第二部史話(二)の中に、原念斎の「遠慮」を掲載している。</li> <li>・「渾沌」の参考として湯川秀樹の評論「科学者のこころ」を抜粋し、掲載している。</li> <li>・言語活動教材として、枕草子の「ありがたきもの」を取り上げている。視覚的教材が充実しており、古文の教材では51編、漢文の教材では24編の教材に図版やイラストが掲載されている。</li> </ul>
第一	322 323	高等学校 古典B 古文編 高等学校 古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編に、「言語活動『源氏物語』と『白氏文集』」というコラムを掲載している。</li> <li>・漢文編に菅原道真、菅茶山などの漢詩を3編を掲載している。</li> <li>・漢文編に正岡子規の漢詩を掲載している。</li> <li>・古文編では「言語活動」というコラムを10編掲載し、教材本編に関わる情報を紹介している。</li> </ul>
桐原	325 326	探求古典B 古文編 探求古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編の中で、「日本の漢詩」というコラムを設け、日本漢詩の変容と文語詩に与えた影響について述べている。</li> <li>・漢文編に「日本の漢詩」という章を設け、菅原道真や頼山陽などの漢詩4編を掲載している他、荻生徂徠の漢文を掲載している。</li> <li>・漢文編に「日本の漢詩」という章を設け、中野道達、成島柳北の漢詩を掲載している他、古文編の中で小林秀雄の「平家物語」(「無常という事」より)という文章を掲載している。</li> <li>・各教材の末尾に、古文編では文法、漢文編では句形の問題を掲載している。</li> </ul>
桐原	327	古典B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編の中で、「日本の漢詩」というコラムを設け、日本漢詩の変容と文語詩に与えた影響について述べている。</li> <li>・漢文編に「日本の漢詩」という章を設け、菅原道真や頼山陽などの漢詩を4編を掲載している他、荻生徂徠の漢文を掲載している。</li> <li>・漢文編に「日本の漢詩」という章を設け、中野道達、成島柳北の漢詩を掲載している他、古文編の中で小林秀雄の「平家物語」(「無常という事」より)という文章を掲載している。</li> <li>・古文編、漢文編ともに、I部・II部の2部構成となっており、古文編I部、漢文編I部、古文編II部、漢文編II部の順に掲載している。6編のコラムを掲載している。</li> </ul>
東書	329	新編古典B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編の「長恨歌」の後に、「源氏物語」の桐壺の巻を参考として掲載し、日本の文学に与えた影響について示している。</li> <li>・漢文編の「日本の漢詩文」という章を設け、5編の教材を掲載している。</li> <li>・古文編の「小倉百人一首の世界」という教材では、あんの秀子の解説文を掲載している。</li> <li>・「古典の窓」を6編、「言語活動」を4編掲載の他、「古典芸能への誘い」というページを設け、広く古典の世界を紹介している。</li> </ul>
東書	330	精選古典B 新版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編の「参考」として、佐藤春夫の詩「丘にのぼりて」、貝原益軒の「慎思録」(人非聖人)、「源氏物語」「桐壺」などを掲載している。</li> <li>・漢文編の「日本の漢詩」という章を設け、夏目漱石、広瀬淡窓の漢詩2編を掲載している。</li> <li>・古文編には、日本の古典についての評論文「和歌というメディア」(ツバタナ・クリステフ)を掲載している。</li> <li>・「古文の窓」というコラムを掲載し、教材本編に関わる情報を紹介している。また、「言語活動」の項目を掲載している。</li> </ul>

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(古典B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	331 332	精選古典B 古文編 精選古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編の中で「参考」として、佐藤春夫の詩「丘にのぼりて」、原良益軒の「慎思録」(人非聖人)、「源氏物語」「桐壺」などを掲載している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本の漢詩」という章を設け、夏目漱石、広瀬淡窓の漢詩2編を掲載している。</li> <li>・古文編には、日本の古典についての評論文「和歌というメディア」(ツベタナ・クリステフ)を掲載している。</li> <li>・「古文の窓」というコラムを掲載し、教材本編に関わる情報を紹介している。また、「言語活動」を四つ設けている。</li> </ul>
三省堂	333 334	高等学校古典B 古文編 改訂版 高等学校古典B 漢文編 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「古典の扉」の中で、「日本の漢詩文」「中国における小説」というテーマの文章を掲載し、中国の文化と日本の文化との関係について述べている。</li> <li>・夏目漱石、正岡子規、森鷗外などの漢詩を掲載し、「古典の扉」「日本の漢詩文」というコラムで漢詩と近代文学とのつながりについて説明している。</li> <li>・漢文編の「日本の漢詩文」という章の中で、夏目漱石、正岡子規、森鷗外の漢詩を掲載している。</li> <li>・「古典の扉」というコラムで、時代背景や古人のものの見方や考え方について解説を掲載している。</li> </ul>
三省堂	335	精選古典B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「古典の扉」「今に生きる古典」の中で、「日本人と三国志」や「日本の漢籍受容」というテーマで、日本文化と中国の文化の関わりについて説明している。</li> <li>・「今に生きる古典」「広がる源氏物語の世界」では、与謝野晶子をはじめ近代以降の作家による現代語訳が書かれていることや、二次創作、漫画が刊行されたことが紹介されている。</li> <li>・漢文編の「日本の漢詩文」という章の中で、夏目漱石、正岡子規、森鷗外の漢詩を掲載している。</li> <li>・「古典の扉」「今に生きる古典」というコラムで、教材に関する情報や解説、古典の世界と現代とのつながりについて掲載している。</li> </ul>
教出	336 337	精選古典B 古文編 精選古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「古典の窓」の中で、「中国の小説と日本」というテーマの文章を掲載し、中国の小説が日本の文学に与えた影響について説明している。</li> <li>・杜甫の「石壕吏」の後の「古典の扉」で、正岡子規の「杜甫石壕吏」を掲載している。</li> <li>・漢文編の「日本の漢詩文」という章の中で、正岡子規、夏目漱石の漢詩を掲載している。</li> <li>・「古典の窓」というコラムと「古典の扉」で、教材に関する解説や情報を掲載したり参考作品の紹介をしたりしている。</li> </ul>
教出	338	古典B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「古典の窓」の中で、「中国の小説と日本」というテーマの文章を掲載し、中国の小説が日本の文学に与えた影響について説明している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本の漢詩文」という章を設け、菅茶山、広瀬淡窓などの漢詩を掲載している。</li> <li>・コラム「文法」の中で、動詞の活用について取り上げ、高校生が間違えてしまいやすい、活用が紛らわしい主な動詞についてまとめている。</li> <li>・コラム「文法」の中で、助動詞のはたらきについて取り上げ、演習問題も付して解説している。</li> </ul>
大修館	339 340	古典B 改訂版 古文編 古典B 改訂版 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文編の中で、主要人物関係図を掲載し、天皇家と摂関家の複雑な人物関係を2頁にまとめている。</li> <li>・コラム「古文を読むために」の中で、文脈の読み解き方を解説し、本文理解につなげている。</li> <li>・漢文編の中で、「日本の漢詩文」という章を設け、菅茶山、広瀬淡窓などの漢詩4首を掲載している。</li> <li>・漢文編の中で、助字一覧表を掲載し、書き下し文作成の一助としている。</li> </ul>
大修館	341	精選古典B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「古文を読むために」の中で、文脈の読み解き方を解説し、本文理解につなげている。</li> <li>・コラム「言語活動」の中で、「古典の「夢」について調べる」という項目を設け、辞書やインターネットの活用役に役立っている。</li> <li>・漢文編の中で、「わが国の漢詩」という章を設け、広瀬淡窓、月性などの漢詩3首を掲載している。</li> <li>・コラム「言語活動」の中で、「詩人の紹介文を書こう」という項目を設け、漢詩を題材とした言語活動を分かりやすく提示している。</li> </ul>
大修館	342	新編古典B 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芥川龍之介「黄粱夢」、茨木のり子「古譚」、加島祥造「タオー老子」など、中国古典に影響を受けている作品を掲載している。</li> <li>・「漱石詩集」の中の漢詩を一編、掲載している。</li> <li>・「漱石詩集」の中の漢詩が一編掲載されている。さらに、大岡信の百人一首に関する評論、横山伊勢雄の唐詩に関する評論が掲載されている。</li> <li>・古典と現代文の読み比べ教材や、古典を題材にした漫画などが複数掲載されている。</li> </ul>
数研	343 344	改訂版 古典B 古文編 改訂版 古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材の後の「ことばと表現」で語句・文法の理解を深めるための設問や、本文に関連した表現活動を促す設問を掲載している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本漢文」という章を設け、菅原道真などの漢詩3編と頼山陽の「日本外史」を掲載している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本漢文」という章を設け、夏目漱石の漢詩を掲載している。</li> <li>・「ズームアップ」欄で、教材の読解から発展させ、教材内容の知識・理解を深められるようにしている。</li> </ul>



「別紙3」【(2)構成上の工夫】(古典B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
明治	345 346	新 精選古典B 古文編 新 精選古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「古文の窓」「漢文の窓」欄で、我が国の文化と、中国の文化についての更なる理解を深める学習を促している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本漢詩文」という章を設け、菅原道真・夏目漱石などの漢詩4編と頼山陽の「日本外史」を掲載している。</li> <li>・漢文編の中で、「日本漢詩文」という章を設け、夏目漱石、佐藤坦の漢詩を掲載している他、「四季の美意識」という古典に関する評論文を掲載している。</li> </ul> <p>教材末尾に内容理解や鑑賞を深めるための「研究」と語句の知識を整理する「言葉の学習」を配している。</p>
明治	347	新 高等学校古典B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「古文の窓」の中では、敬語を取り上げて我が国の言語文化の特質を紹介し、コラム「漢文の窓」の中では、「十八史略」を取り上げて我が国に与えた影響を説明している。</li> <li>・漢文編後編の中で、「日本漢詩文」という章を設け、菅原道真などの漢詩2編と原念斎の「荻生徂徠」に関する漢文など2編を掲載している。</li> <li>・コラム「古文の窓」の中で「古語と方言」、「漢文の窓」の中で「日本漢詩文」をテーマとした文章を掲載している。</li> <li>・「古文の窓」、「漢文の窓」というコラムを掲載し、教材本編に関わる情報を紹介している。</li> </ul>
筑摩	348 349	古典B 古文編 改訂版 古典B 漢文編 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編巻頭の写真の説明において、「白氏文集」が「源氏物語」や「枕草子」に与えた影響について記述され、「中国の史書」で、頼山陽「日本外史」と「史記」との関係に触れている。</li> <li>・漢文編で新井白石の漢詩や頼山陽の漢文を掲載している。</li> <li>・漢文編で夏目漱石の漢詩を掲載している。</li> <li>・古文編巻末に、まとめとして、特徴的な文体を備えている作品の一部を時代別に配列して掲載している。</li> </ul>
第一	350 351	高等学校 改訂版 古典B 古文編 高等学校 改訂版 古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文編に、「言語活動『源氏物語』と『白氏文集』」というコラムを掲載している。</li> <li>・漢文編に菅原道真、菅茶山などの漢詩を掲載している。</li> <li>・漢文編に、正岡子規の夏目漱石へ向けた惜別の漢詩を掲載している。</li> <li>・古文編、漢文編ともに「言語活動」というコラムを掲載するとともに、各テーマごとに解説文を設け、教材本編に関わる情報を紹介している。</li> </ul>
第一	352	高等学校 改訂版 古典B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語活動」では、「源氏物語」「白氏文集」の関わりについて説明し、「長恨歌」を紹介している。</li> <li>・漢文編に、正岡子規の夏目漱石へ向けた惜別の漢詩を掲載している。</li> <li>・日本の漢詩文として、菅原道真、菅茶山、正岡子規の作品を掲載している。</li> <li>・「言語活動」では、他の作品との読み比べを紹介している。各教材末に学習課題が設けられている。</li> </ul>
第一	353	高等学校 改訂版 標準古典B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語活動」では、平安時代の文学と「白氏文集」の関わりについて説明し、「源氏物語」、「長恨歌」を紹介している。</li> <li>・漢文編に、正岡子規の夏目漱石へ向けた惜別の漢詩を掲載している。</li> <li>・日本の漢詩文として、菅原道真、菅茶山、正岡子規の作品を掲載している。</li> <li>・「言語活動」では、他の作品との読み比べを紹介している。各教材末に学習課題が設けられている。</li> </ul>
桐原	354 355	新 探求古典B 古文編 新 探求古典B 漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コラム」では、「源氏物語」、「長恨歌」を紹介している。</li> <li>・漢文編に、中野逍遙の漢詩を掲載し、「コラム」には日本漢詩について説明がある。</li> <li>・日本の漢詩文として、菅原道真、頼山陽、中野逍遙、成島柳北の作品を掲載している。</li> <li>・「コラム」、教材末の「読解」、「古文解析」「漢文解析」の項目を設け、古典学習を喚起する構成となっている。</li> </ul>